

1 国 語

言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める国語学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

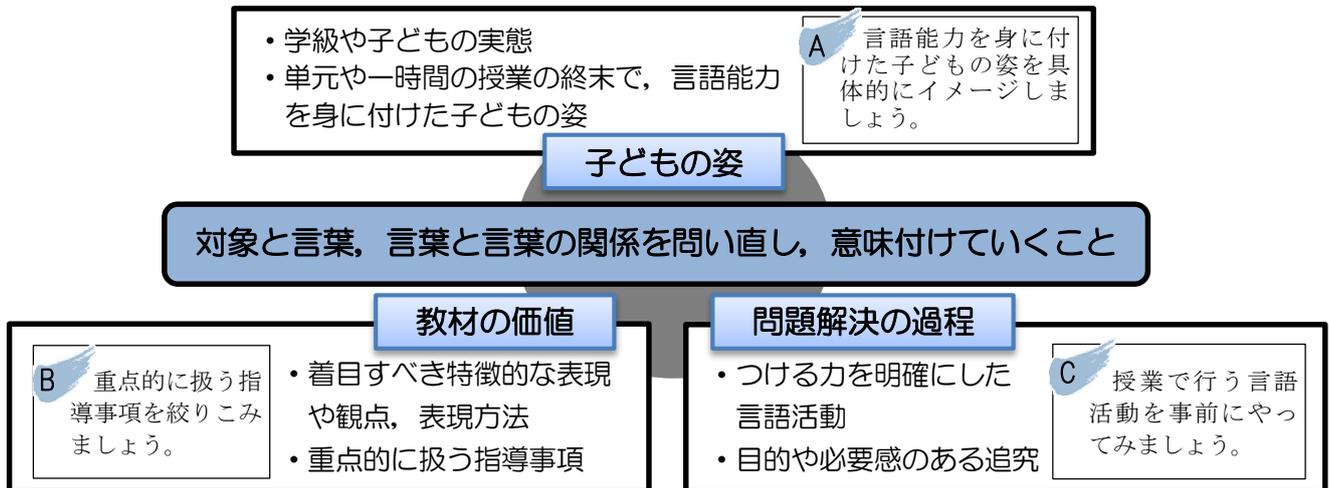
○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- 「授業がもっとよくなる3観点」を意識し、学習問題や学習課題を明示し、学習形態を工夫しためりはりのある展開を大事にした授業が増えている。
- ◆ 言語活動を通してどんな言語能力を付けるのか、つける力を身に付けた姿を具体的にイメージできていない授業が見られる。
- ◇ 学習指導要領の指導事項の中から重点的に扱う内容を決めだし、子どもの実態に即し、つける力を明確にするために教材研究を充実させる。
- ◇ 授業の終末や家庭学習、定期テストなどで、一般化の問題や課題に取り組み、学習内容の定着を確実に見とどける。

II 国語科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

【教材研究の充実】

国語科では、「子どもの姿」「教材の価値」「問題解決の過程」のそれぞれを関連させて、単元や授業のなかで、対象と言葉、言葉と言葉の関係を問い直し、意味付けていくことを通し、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める子どもの姿を具体的にイメージできるように教材研究を行いましょ。



【ねらいの明確化】

◎子どもの実態を学習指導要領の指導事項と照らし、言語能力を身に付けた子どもの姿を具体的にイメージし、評価規準を設定する。また、それにつながる追究の見通しをもてるように学習課題を設定する。

【めりはりのある展開】

◎以下のように追究の視点を焦点化する。

話すこと・聞くこと 目的に沿って、話し方・聞き方・話し合い方のよさに焦点を当てる。

書くこと 目的や意図を明確にした上で、それに合った表現方法や構成等のよさに焦点を当てる。

読むこと 目的に応じて、叙述や文章構成、図表等を関連させ、教材文の特徴的な表現に焦点を当てたり、一人一人の読みの共通点や相違点に焦点を当てたりする。

◎個人追究や共同追究での学習形態（全体学習、グループ学習、ペア学習等）を工夫する。

【ねらい達成の見とどけ】

◎終末場面で、身に付けた言語能力を自覚できるようにするために、どのように追究して、どのようなことができた、分かったのかという視点で、子どもが振り返る場を設ける。

◎追究場面の終盤から終末場面にかけて、1時間の評価規準に照らし、言語活動に取り組む中で言語能力を身に付けた姿を、発言や記述の内容に基づいて、教師が見とどける。

☆本時や本単元で身に付けた言語能力の一般化の問題を作成し、家庭学習や定期テスト等に生かしましょう。

例) 読み物教材で付けた力を、他の作品で活用しながら読む問題を作成する。

言葉の意味などの知識を問うばかりではなく、その言葉の効果についての考えを問う。 など

授業の前に

- | | |
|---|--|
| 1 教材の価値をとらえ、学習指導要領の指導事項を基に、子どもの実態に即し単元を通してのねらい（つける力）を決めましたか。 | 2 単元の導入で、子どもたちが何のために読んだり、書いたり、話したり聞いたりするか、言語活動の目的をはっきりとさせ、子どもたちと共有しましたか。 |
| 3 本時、言語能力を身に付けた子どもの姿を思い描き（評価規準設定）、それにつながる本時の学習問題と学習課題を考えましたか。 | 4 子どもの思考が深まる学習活動や学習カードなどを計画・準備したり、枠や線などを工夫した構造的な板書計画を立てたりしましたか。 |

授業では

問いを明らかにし
課題を把握して
追究し

子どもの姿	教師の指導・助言
1 子どもの気付きや疑問を学習問題として焦点化する。	
1 子どもの気付きや疑問を出し合い、学習問題を決めだす。	①モデル等から気付いたことやそれまでの言語活動で生じた疑問を出し合う場を設け、子どもと共に学習問題として共有し、板書し位置付ける。
2 着目する言葉や追究の方法を明確にした学習課題を設定する。	
2 学習問題を解決するために具体的な追究の見通しをもつ。	②モデルや既習等から「どの言葉に着目し、どのように考えればよいのか」を子どもと共に明確にし、学習課題とする。
3 個人やグループでの追究の場面を設定し、一人一人の考えをとらえる。	
3 学習問題に対する自分の考えをもつ。	③ア 机間指導を通して、一人一人がどの言葉からどのように考えているかを把握する。 イ 一人一人の考えをどのように焦点化し、どのような共同追究の場を設定するか構想して、次の展開に生かす。
4 共同追究の場を設定し、考えの広がりや深まりをとらえる。	
4 自分の考えを伝えたり友の考えを聞いたりして、考えを広げ、深める。	④ア それぞれの考えの共通点や相違点を明確にしていく。 イ どのような観点で比較、検討しているのか、どう深まっているのかを板書等で整理して示す。
5 「つける力」を身に付けた姿を全員で共有する。	
5 追究の過程や、広がり、深まった自分の考えをまとめる。	⑤ア 学習問題が、どのような追究を通して解決したのか、言語化してまとめるよう促す。 イ 子どものまとめを板書して可視化する。
6 一般化の問題に取り組み、振り返りをし、学習内容の定着を見とどける。	
6 学んだことを基に問題に取り組み、本時の追究を振り返る。	⑥ア つける力に沿った一般化の問題に取り組んだり、本時の学びを振り返ったりする場を設ける。 イ 次時の学習活動の見通しをもてるようにする。

まとめる

5 子どもが考えてみたくなるような学習問題になっていますか。

6 本時、どのような言葉や言語技術に焦点を当てて明確になっていますか。

7 どの言葉に着目したか、問い返したり、共感したりし、座席表に子どもの考えを分類して記録しましたか。

8 言葉についての思考の深まりを可視化した板書になっていますか。

9 板書したまとめは、イメージした言語能力を身に付けた姿になっていますか。

10 身に付けた言語能力の一般化の問題を解いたり、身に付けた言語能力を自覚できる振り返りの場を設けたりしていますか。

2 社 会

社会的事象の意味や意義を問題解決的に説き明かす社会科学学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

○授業がもっとよくなる3観点を意識し問題解決的な学習へと転換されてきている。

◆単元のねらいの達成と1時間の授業の関係が曖昧になりがち。

◆学習問題や学習課題が子どもたちの問いや追究の見通しとなっていないことが多い。

◆グループ追究において、活動が優先してしまい、形式的で目的が明確でない。

◇学習指導要領をもとに、「ねらいを達成した姿」を、子どものまとめの言葉で表す。

◇「単元を貫く問い」を設定し、毎時間の学習問題との関係を明確にして、単元を構造化して構想する。

◇「ねらいを達成した姿」となるためには、何について調べ、何を考えさせ、どうまとめるのかを検討し、そのために適切な学習形態を明確にする。

II 社会科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上 指導・支援のポイント (☞)

1 ねらいの明確化

ねらいの達成につながる学習問題を設定する

・まず、学習指導要領(解説)を基に、単元を通してのねらい(つける力)を明確にし、その達成につながる「単元を貫く問い」を設定し、問題解決的な学習を展開しましょう。

・単元での位置付けを踏まえて、1時間の授業のねらいを明確にし、その達成につながる学習問題を設定しましょう。

☞どのような学習問題を、どのように設定することが適切なかを吟味しましょう。

〈社会科の主な学習問題〉

事実を調べる活動に向かう学習問題
「～はどのように〇〇しているのだろうか」
「～はどのような〇〇なのだろうか」など

仕組
特色
意味
意義
社会的事象

意味や原因などを
考える活動に向かう学習問題
「なぜ～なのだろう」
「〇〇なのに△△なのは どうして」など

社会に見られる課題について考え
選択・判断する活動に向かう学習問題
「◆◆すべきだろうか」 など

自分たちの
かわり

課題についての方策や参画を
考える活動に向かう学習問題
「どうすれば◇◇となるのだろうか」など

・学習問題についての自分の予想(考え)から、「何」を「どのように」調べれば解決できそうかという追究の見通しを明らかにしましょう。

2 めりはりのある展開

学習問題の解決を図るために、見通しをもって調べる

・学習問題の解決に向けて、具体的な事実や情報を収集する活動を位置付けましょう。

☞体験的な調査活動や資料から読み取るべき内容を具体的にしておきましょう。

☞収集した事実や情報を共有するために、学習形態を工夫したり、板書で整理したりしましょう。

調べたことをもとに、学習問題について考え、検討する

・収集した事実や情報を、比較、関連付け、総合するなど、社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する場面を位置付けましょう。

☞「違いは?」「共通点は?」「つながりは?」「つまり、どういうこと?」「まとめると?」等子どもの思考や話し合いを焦点化、まとめるための発問を大切にしましょう。

3 ねらいの達成の見とどけ

検討をもとに、分かったことや自分の考えをまとめる

・学習問題について分かったことや、学習活動を振り返って考えたことを書く場面を位置付けましょう。

☞子どもには：学習問題について分かったことをノートや学習カードに書かせましょう。また、予想と分かったことを比較して、自分の調べ方や学び方を振り返らせましょう。

☞先生は：本時の「ねらいを達成した姿」と照らし合わせて、個々の子どものねらいの達成を見とどけ、次時の指導計画に生かしましょう。また、学びの過程で、社会的事象の意味や意義を考察する力や、それらを説明する力等を、子どもが高めた姿を見とどけましょう。

授業の前に

- 1 学習指導要領を基に単元を通してのねらい（つける力）を明確にし、単元のねらいの達成につながる「単元を貫く問い」を設定する。
- 2 単元のねらいの達成に向けて、どのような知識や概念を習得させていくか、「単元の構造図」などを作成し、1時間ごとのねらいを明確にしながら単元構想をする。
- 3 1時間の授業では、子どもの実態や単元構想をもとに、「ねらいを達成した姿」につながる本時の学習問題と学習課題を考える。
- 4 思考力・判断力・表現力等を育むための活動を意図的に学習過程の中に位置付ける。
- 5 発問や板書計画、学習形態等を考え、資料や学習カードなどを準備する。

授業では

	子どもの姿	教師の指導・助言
問題把握	①資料を見て疑問をもつ。 「あれっ？」 「どうして？」	1 本時のねらいの達成につながる学習問題を設定する。 ア 「あれっ」「どうして」といった素朴な疑問が生まれる資料を提示する。 イ 子どもがもった素朴な疑問を学級全体に広げ、本時のねらいにつながる学習問題を設定する。
	学習問題 「～はどのように〇〇しているのだろうか」「〇〇なのに△△なのはどうしてだろう」「◇◇すべきだろうか」「どうすれば◇◇となるのだろうか」	
問題の究明	②予想を立てる。 「たぶん〇〇だろう」 「きっと△△ではないかな？」	2 学習問題を解決するための、学習課題を設定する。 ア 学習問題に対して、既習の内容や生活経験を根拠にしたり、結果を見通したりして予想を立てるように促す。 イ 予想を検討し合って整理し、追究の内容と方法を明確にした学習課題を設定する。
	学習課題 (追究の内容) について、(方法) で調べて、考えよう。	
整理・発展	③予想をもとに調べる。 「やっぱり、〇〇なんだ」 「自分の予想と違って、〇〇なんだ」	3 個人追究では、一人一人の考え方をとらえ、指導・助言する。 ア 自分の予想を確かめる資料を選び、根拠を明らかにして、分かった事実や情報を記入するように促す。 イ 机間指導や対話を通して、追究の様子を座席表に記入しながら、考えのかかわらせ方等の計画を立てる。
	④調べて分かった事実や情報を出し合い、問題解決に向けて話し合う。 「～さんと同じで…」 「～さんに付け加えて…」 「～さんと違って…」 「AとBは関係していて…」 「Cは〇〇だけど、Dは…」 「まとめると…」「つまり…」	4 ねらいの達成につながる追究の場を設定する。 ア 個人、ペア、グループ、学級全体等で、分かった事実や情報とその根拠を整理したり、共有したりする場を設定する。 イ 共有した事実や情報を、子どもが主体的に比較したり、関連付けたりできる手立て（発問、思考ツール、構造的な板書等）を講じる。 ウ 「つまり、どういうことなのか」等、社会的事象の特色や相互の関連、意味に迫ることができる発問をする。
	⑤学習問題について分かったことをまとめ、学んだ内容を振り返る。 「はじめは△△と思ったけど、～から〇〇だということが分かった」	5 学習をまとめる場を確保し、ねらいの達成を見とどける。 ア 学習問題について分かったことをノートや学習カードに記入し、発表するように促す。 イ 自分の調べ方や学び方、結果などを振り返るように促す。 ウ 本時の「ねらいを達成した姿」に照らし合わせて、学習カードの記述や発言の様子から個々の子どものねらいの達成の様子を見とどけ、次時の指導計画に生かす。

3 算数・数学

できる喜びや、考える楽しさを実感する算数・数学学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- 「授業がもっとよくなる3観点」を意識し、ねらいを明確にしてめりはりをつけ、最後にまとめ・確認問題に取り組む時間を位置付けた授業が見られる。
- ◆ ねらいに迫る疑問や問いをもたせることなく、追究が作業に偏りがちな授業が見られる。
- ◆ 少人数での追究の時間を設けているが、子ども同士で知恵を絞って解決すべき課題がないため、友とかかわり合う必要がなく、追究が深まらない授業が見られる。
- ◆ 全体追究において、導いた結果を発表するだけで、本時のつける力に迫らない授業が見られる。
- ◆ 個別指導に時間をかけすぎてまとめの時間がなかったり、教師が一方的にまとめたりする授業が見られる。
- ◇ 学習指導要領に示された目標や内容、子どもの素地や内容の系統性、緻密な素材分析に基づいて教材研究を行い、「ねらい」「めりはり」「見とどけ」の内容のさらなる充実を図る。
- ◇ 数学的な表現を適切に用いたり、数学的な推論を的確に進めたりして、数学的に表現されたものを関連付け、数学的な見方・考え方が深まるようにする。

II 算数・数学科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

<ねらいの明確化>

- 本時のつける力を明らかにし、評価の観点を絞り込んで、ねらいを達成した具体的な子どもの姿を想定する。
- 子どもの実態を踏まえ、緻密な素材分析に基づいた教材化を図る。
- 問題解決のために、何をを用いるのか、どのように用いるのか、子どもに問いかけながら解決方法の見通しや結果の予想を立て、子どもの追究が作業に偏らないように、子どもの疑問や問いを大切に学習課題を据える。

<めりはりのある展開>

- 具体的な事象を、絵や図、数や式などを用いて、数学的に表現したり、処理して考察したりする場を設ける。
- 思考の過程や根拠を図や式などに表現して説明したり、表現された図や式などから思考の過程を読み取ったりする場を設ける。
- 互いの考えを比較・検討し、共通点、相違点について伝え合い、自分と違う考え方を試したり、自分の考えをよりよいものに改めたり、数や図形の性質などを見いだしたりする場を設ける。

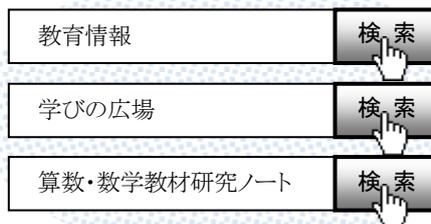
<ねらい達成の見とどけ>

- 子どもが学習課題に即して追究を振り返る場を設け、獲得した知識・技能及び解決に活用した数学的な見方・考え方を子どもの言葉でまとめたり、本時のつける力に沿った問題を扱ったりする。
- 本時のつける力の達成が不十分な子どもには、本時の学習のどこでつまづいているのかなど、その状況を把握した上で、事後の指導に生かすようにする。

授業の前に

- 1 内容の系統性や子どもの素地から、本時の位置付けを考える。
- 2 学習指導要領の指導内容を見て、つける力を、知識・技能と数学的な見方・考え方の両面から決める。
- 3 発問や板書計画、学習形態などを考え、掲示物や学習カードなどを準備する。

長野県総合教育センターHPをご活用ください。



授業では

	子どもの姿	教師の指導・助言
課題把握	①学習問題を把握し、問題解決に向けて、追究や結果の見通しをもつ。	1 学習問題を提示し、子どもと共に学習課題を据える。 ア 学習内容への興味・関心が湧く提示の仕方を工夫する。 イ 問われていることを明確にする。 ウ 既習事項と同じ点や違う点を問い、困難点を明確にする。 エ 解決方法の見通しや結果の予想に基づいて学習課題を据える。 ○日常生活や社会の事象、数学の事象をもとに問題を設定する。
追究	②個人で追究する。 ③解決方法や判断の理由などについて、互いの考えを比較検討しながら話し合う。 ④学習課題に即してまとめる。	2 個人追究では、一人一人の考え方をとらえる。 ア 自分の考えを数学的な表現を用いて記述するように促す。 イ 対話などを通して、追究の様子を的確に把握する。 ウ 個々の考えを把握し、ペア・グループ追究の視点を考える。 エ 発表の順番やかかわらせ方を考え、全体追究を構想する。 オ 個に応じて、指導・助言する。 3 見方・考え方を活用したり、深めたりする共同追究にする。 ア 少人数での追究を取り入れる場合は、話し合う視点を明確にする。 イ 解決の過程を説明し合い、互いの考え方の共通点・相違点を明らかにする。 ウ 互いの考えを比較・検討し、簡潔・明瞭・的確の視点から考え方を統合したり、他の場合でも通用するかを考えたりするように促す。 4 子どもの言葉でまとめる。 ア 学習課題に即して、追究を振り返り、まとめる場を設ける。 イ 獲得した知識・技能とともに、解決に活用した数学的な見方・考え方が記述できているか確認する。 ウ 子どもの言葉を板書し、まとめる。 ○解決過程を振り返り、得られた結果の活用・意味付け・統合・発展・体系化等を考える場を設定する。
一般化	⑤学んだことを使って問題に取り組む。	5 定着・活用の時間を十分確保し、定着を見とどける。 ア つける力に沿った問題を用意する。 イ 一人一人の実態を踏まえ、事後の指導に生かす。

4 理 科

「体験」と「言語」で深める理科学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

○事象に働きかける体験や事象提示等を工夫し、子どもの気付き、驚きや疑問に基づいて学習問題を据えている。
○子ども自身による、予想を検証するための体験（観察、実験）を充実させている。

◆目的意識をもった観察、実験に向けて、予め個人で考え、その後意見交換したり、議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習場面が十分に保障されていない（検証計画の立案、結果の考察など）。

◆学習の過程を振り返って変容を自覚したり、表現したりする学習場面が十分に保障されていない。

◇問題解決的な学習を通して、子どもの素朴な見方や考え方を、「体験」（事象への働きかけや観察、実験等）と、「言語」（予想や考察、振り返り等）を充実させることで科学的な見方や考え方に変容させよう。

II 理科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

ねらいの明確化

- ・事象に働きかける体験や、ねらいに沿った意図的な事象提示等を充実させる。
- ・自然の事物・現象から問題を見だし、驚きや疑問を基に焦点化した学習問題を据える。
- ・予想とその根拠を発表する場を設け、意見交換や議論を通して、自分の考えを再検討し、仮説の設定や観察、実験の計画を立案する言語活動を充実させる。
- ・問題を解決するための検証方法と結果の見通しをもって、観察、実験に取り組めるようにする。

めりはりのある展開

- ・器具・装置等を工夫し、単元や時数に応じて個別または分担して観察、実験を行えるようにする。
- ・観察、実験中は、安全に配慮しつつ、結果を明確に捉えている子どもの姿に共感したり、予想と比較して結果を詳細に捉えるよう助言したりする。
- ・適切な結果が得られていない実験や、妥当性が低いと判断している実験については、再実験を促す。
- ・結果を言葉や図、表、グラフ等を用いて整理して板書し、すべての結果を全体で共有することで考察に生かせるようにする。

ねらい達成の見とどけ

- ・すべての結果を比較し、差異点に着目した妥当性や共通点に着目した傾向性を捉えて、学習問題や予想と照らし合わせて考えながら、考察をまとめるよう促す。
- ・互いの考察について意見交換し、自分の考察を再検討する言語活動を充実させる。
- ・複数の事象から分かる規則性や概念を、科学的な言葉や図等を使用したり、既習内容と関係付けたりして、結論を導き出せるようにする。（科学的な言葉については、必要に応じて教師が説明したり、紹介したりする。）

★評価規準に照らし、ねらいの達成を評価する（見とどける）

個々の学習カード等の考察や結論の記述等を基に、ねらいの達成状況を評価規準に照らして評価する。

さらに、振り返りでは

☆自然の規則性を日常生活と結び付けたり、新たな疑問をまとめたりする

☆追究や思考の過程を振り返り、自己の変容を捉えられるようにする

考察（分かったこと）で記述する
内容と、振り返りで記述する視点
の違いを、子どもたちが意識でき
るようにしましょう。

授業の前に

- 1 内容の系統性から、既習内容や子どもたちがもっている生活経験等を捉える。
- 2 学習指導要領等を基に、ねらいやつける力、育成する問題解決の能力（比較、関係付け、条件制御、推論、分析・解釈）を決めだす。
- 3 子どもたちの実態に即して、ねらいの達成につながる適切な素材を選定し、教材化を図る。
- 4 主体的な問題解決となるよう発問や板書計画、学習形態、時間配分などを考える。

授業では

	子どもの姿	教師の支援・助言 ○：体験 ◇：言語 ★：見とどけ
事象に働きかけ	1 学習問題を決めだす 「やってみたい！」 「あれっ、なぜ？」 「どうして？」 「調べてみたいな」	事象への働きかけと学習問題の把握・設定 ①自然の事象に触れさせたり、事象を提示したりする。 ○事象に働きかける体験や、既有的見方や考え方では説明できない事象提示等により、子ども自ら問題を見いだせるようにする。 ②子どもの気付き、驚きや疑問を焦点化した学習問題を設定する。 ◇驚きや疑問等を語り合う場を設け、問題意識等を焦点化して学習問題を板書する。
	2 見通しをもつ 「～の方法で調べれば～という結果になるはずだ」 「～の予想が正しければ、～という結果になるはずだ」	課題把握（予想と検証計画の立案） ③既習内容や生活経験を基に、予想を立て、発表し合い、再検討する場を設ける。 ◇予想とその根拠を記述させ、差異点や共通点を明らかにする話合いの場を設ける。 ◇予想とその根拠の発表などの言語活動を通して、それぞれの素朴な見方や考え方を整理して板書で位置付け、各自の予想や根拠を再検討するよう促す。 ④仮説や予想の検証計画を話し合い、見通しをもった観察、実験ができるようにする。 ◇示範や演示等により、具体的な検証方法を考える。 ◇予想が正しければどうなるか、子ども同士のペアやグループで検討し、結果まで見通して観察、実験に臨めるようにする。
追究し	3 予想を検証する 「やっぱり、～だった」 「予想と違って、～だったので驚いた」	観察、実験（検証） ⑤観察、実験の結果を明確にすることができるよう支援・助言する。 ○五感を通して事象を捉えることができるよう器具・装置等を工夫する。 ○単元や時数に応じて、個別または分担して観察、実験を行うようにする。 ○適切な結果が得られていない場合等、方法や条件の検討を助言して再実験を促す。
	4 結果を整理する 「友だちの結果は、どうなっているのかな」	結果の整理と共有 ⑥得られた結果を整理し、すべての結果を全体で共有する場を設ける。 ◇図や表等を用いて結果を整理するよう助言し、結果を全体で共有する場を設ける。
まとめる	5 分かったことをまとめる 「～の結果から、～ということが分かった」 「～については、はっきりしなかった」 「つまり～ということが言えるんだ」	考察 ⑦学習問題や予想と照らして考察を記述し、意見交換し、再検討する場を設ける。 ◇すべての結果から妥当性や傾向性を捉えて、子ども同士で検討し、予想と比較して考えながら、学習問題に対する自分の考えを記述するよう助言する。 ◇全体で意見交換し、「はっきりしたこと、しなかったこと」を明らかにして、自分の考察を再検討した科学的な見方や考え方を記述する場を設ける。 ◇既習内容と関係付けたり、紹介した科学的な言葉等を用いたりして説明するよう促す。 ◇複数の事象を基に、そこから分かる規則性や概念を導き出せるようにする。 ★ねらいの達成状況を、評価規準に照らして評価する。
	6 本時を振り返る 「日常の～は、こういうことなんだ」 「次は、～について調べてみたい」	振り返り ◇学習内容を日常生活と結び付けて考えるよう促す。 ◇新たな疑問を取り上げ、次時の学習問題につなげるようにする。 「日常生活と結び付けて考えたり、もっと調べてみたいことを書いたりしましょう」 ◇見方や考え方の変容につながった自他の追究のよさ等を振り返るよう促す。 「自分や友だちの考えのよさや、取組の工夫や苦勞を書きましょう」

5 生 活

対象に没頭する中で、気づきの質を高めていく生活科学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- 児童の思いや願いをとらえ、興味関心を生かした学習活動を構想した授業が展開されている。
- 教師が、児童の様々な活動の様子やつぶやき等を肯定的に受け止められるようになっていく。
- ◆児童が繰り返し活動に取り組む中で、高まっていく対象への思いや願いに沿って、対象と存分にかかわり、没頭していきけるようにすること。
- ◇体全体で対象をとらえていくことができるように、対象とかわる体験や活動を繰り返し行う。繰り返し対象とかわる中で高まっていく思いや願いから、次の活動を児童自身が決めだすようにする。
- ◇児童一人一人に対する願う姿の実現の様子を見とどけ、次の指導に生かせるように、児童の思いや願い、考え、気づきなどをとらえる。
- ◆対象に没頭する中で児童が見いだす、対象への「気づき」を、自覚させたり関連付けたりし、対象により密接にかかわっていき自分のよさに目を向けさせること。（気づきの質を高めていく）
- ◇児童が見いだした気づきを、比較したり分類したり関連付けたりなどして対象をとらえ直すよう促すとともに、試行したり予測したり見立てたりなどして、新たな活動を創り出せる場を設ける。
- ◇児童が自分の活動のよさを自覚できるように、教師が児童の「気づき」をとらえ、褒めたり、認めたり、問い返したりする。

II 生活科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

ねらいの明確化

一人一人の願いを確認し、活動の見通しをもつ

- ・対象がもつ価値をとらえ、児童に親しみやすい単元名をつける。例：「さあ おはいいり！うさぎさん」
- ・児童一人一人に、やりたい活動やその見通しをもたせる。
- ・児童一人一人が、自分の願いを十分に実現できる環境を整え、その時間を確保する。

めりはりのある展開

一人一人の追究が保障されている

- ・児童が対象を感じ、考え、気づいていくことができるように、対象に直接働きかけたり、働き返されたりするなど、対象との双方向のやりとりを繰り返しながら、没頭させていく。
- ・児童が見いだした気づきを、比較、分類、関連付けるなどして対象の共通点や相違点に気付かせたり、試行、予測、見立てるなどして新たな活動を生み出したりして、気づきの質を高めていく。
- ・児童の具体的な姿をイメージし、児童の活動のよさをとらえ、児童がそれを自覚できるように褒めたり、認めたり、問い返したりする。

ねらいの達成の見とどけ

できるようになったことや困ったことを表し振り返る

- ・一人一人の活動のよさを認め、次の活動への意欲をもたせたり自分の成長を感じさせたりする。
- ・得られた手応えや自信をもとに、新たな活動に挑戦していこうとする態度を育むことができるように、学習活動の過程や成果を表現し振り返らせる活動を位置付ける。
- ・活動中における児童の姿(対象とのかかわり方、言葉、動作、表情等)や、振り返りの場面における見とどけの視点(対象への気づき、願い、次時への期待、困難さ)を明確にする。
- ・一人一人の活動状況を適切に把握したり、学習活動を評価し改善したりするために、単元における具体的な学習状況を想定した評価規準を設定する。

※評価基準に関する資料を活用ください。

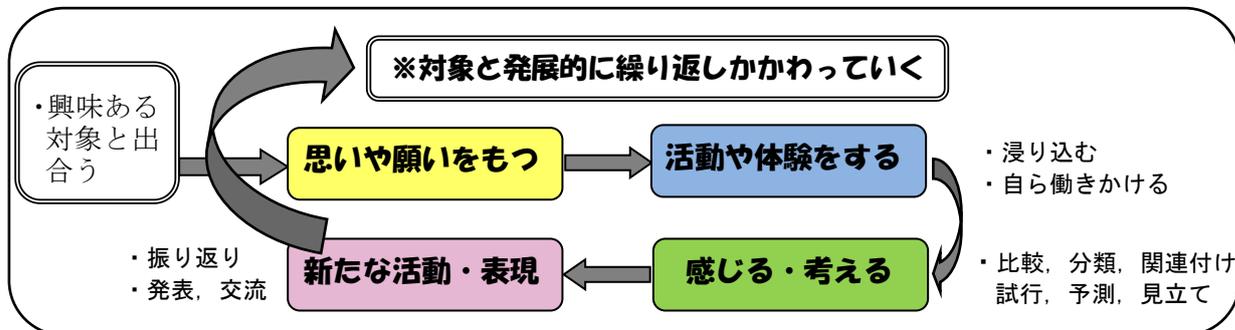
国立教育政策研究所 生活科 評価規準

検索

授業の前に

- 1 児童の興味関心をとらえ、学習指導要領の9つの内容をもとに、単元全体を通して「願う児童の姿」を決めだし、それらにつながる学習対象、活動を設定する。
- 2 児童が試行錯誤しながら繰り返し対象とかかわることができるように、必要な場を設定したり材料等を準備したりする。
- 3 対象とのかかわりを振り返るために、学習カードやこれまでの活動の様子が分かる掲示物等を準備する。

対象とかかわるイメージ



※上記4つの学習過程は、複数の学習過程が一体化して同時に行われたり、順番が前後したりする場合もある。また、この学習過程が単元の中で数時間に及び行われたり、1時間の授業の中で行われたりする場合もある。

授業では

	子どもの姿	教師の指導・助言
はじめ	①本時やりたいことが決まっている。 ②どのように活動するのか、そのための材料や方法などの見通しをもっている。	1 児童の願いを把握し、活動への見通しを確認する。 ア 児童の活動への願いが十分高まっていることを確認する。(発言・表情等) イ 安全への配慮など、必要な注意事項を伝える。 ウ 活動への意欲を高め、素早く実際の活動に入り、活動の時間を保障する。
	③試行錯誤を繰り返して、願いの実現に向けて活動する。	2 教師も共に活動を行ったり、見守ったりしながら、児童の活動への願いが実現するために必要な支援を行う。 ア 活動の様子や気付きをとらえ、そのよさを児童が自覚できるように、褒めたり、認めたり、問い返したりする。 イ 教師も共に活動し、心地よさを味わいながら共感する。 ウ 比較・分類・関連付けるなどして、対象の共通点や相違点に目を向けるよう促す。 エ 試行・予測・見立てるなどして、新たな活動を生み出すよう促す。 オ 児童の成長の姿をとらえ、必要に応じてグループで協同的に取り組む場面を設定する。
なか		
おわり	④活動した中での気付きを言語や絵等で表現し、それを友と共有して、次の時間にやりたいことを明確にする。	3 それぞれの活動を振り返る場を設定し、本時願う児童の姿の達成を見とどける。 ア 教師が多様性を尊重することにより、互いの活動や作品等が異なることを認め合える雰囲気をつくる。 イ 活動や気付きを言語や絵等によって表現するように促すことで、そのよさや自らの成長を自覚する場を設定する。 ウ 振り返りから得られた手応えや自信を全体に広げ、友と共有することで、次時の活動への意欲や見通しをもたせる。

授業の後で

- ・本時の活動の中でとらえた姿、振り返りの時間の言葉や表情、学習カード等から、単元のねらいの達成状況を見とどける。それを基に、次時に願う児童の姿を更新する。
- ・児童の中に生まれた新しい活動への願いや課題をとらえ、その実現に向けて、次時を構想する。

6 音 楽

思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする音楽学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- 「思いや意図」をもって主体的に表現していく過程を大切にして授業が展開されている。
- ◆音楽にじっくり触れる時間が少なく、子どもが音楽のよさや楽しさを十分に味わうことができていない。
- ◆「感想を書きましょう、振り返りをしましょう」などと振り返りの場面は設定されるが、子ども自身が「何ができるようになったか」「何が分かったか」を意識したまとめになっていない。
- ◇よりよい表現を求めて、気付いたり感じたりしたことを友と伝え合って考えるなど試行錯誤を充実させ、音楽と豊かにかかわりながら思考・判断をしていく授業を充実させる。

II 音楽科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

1 「ねらい」の明確化

□ 聴くことを充実させ、深く音楽に触れ、心が揺り動かされるような導入を

○「聴く・聴き比べる」活動を適切に位置付ける

- ・「歌う・演奏する」活動や「聴く・聴き比べる」活動を充実させ、音楽の特徴を聴き取ったり（知覚）感じ取ったり（感受）することを通して、本時追究する課題を明らかにする。

○目指す表現を共有できるようにする

- ・子どもが音楽から聴き取ったり感じ取ったりしたことを伝え合いながら目指す表現を絞りこみ、板書や拡大楽譜にまとめることなどを通して互いに共有できるようにする。

○追究の意欲や見通しをもつことができるようにする

- ・〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素をどのように働かせれば、曲想を生かした願う表現に近づくか、考えたり試しに表現したりするなどの場を設定する。
- ・表現を工夫する手掛かりを、常に音楽の特徴や曲想、歌詞の内容、〔共通事項〕の要素の働きなどのなかに求めるよう促す。

2 「めりはり」のある展開

□ 十分に音楽とかかわりながら、友とよりよい表現を求める活動を

○音楽のよさや美しさを感じられる活動を設定する 【触れて 感じて】

- ・自分の思いや意図が表現できるように音楽を演奏したり聴いたりする時間を十分に取り。
- ・常に“聴く、聴き合う”活動を充実させ、子どもが音楽のよさを感じ取ることができるようにする。

○友と一緒に追究する場を設定する 【かかわって】

- ・歌ったり演奏したりして、友と感じたことを伝え合う等、互いの意見を伝え合うことを促す。
- ・友だちと表現を聴き合って、そのよさを発見する活動を取り入れる。

○子どもたちが互いに考えを出し合い、表現の工夫を試すことを大切にする 【考えて】

- ・追究する内容や視点を明確にして、互いの意見や考えが反映できるようにする。

3 ねらいの達成の「見とどけ」

□ 子どもが「何ができるようになったか」「何がわかったか」を実感できるまとめを

○本時追究したことを全員で表現し、確認する

- ・まとめの表現活動（歌ったり演奏したりする）を適切に位置付ける。

○学習課題に立ち返って、追究を振り返り、自分の言葉でまとめる

- ・「本時学習した〔共通事項〕が生み出す特質や雰囲気」を視点にまとめるように助言する。

○自己評価・他者評価、教師の評価を適切に行う

- ・さらに追究の意欲が増すようよさを認めて賞賛し、次の課題を明らかにする。

授業の前に

□ 教材研究を充実させよう

- 1 授業の様子、常時活動等から子どもの実態を丁寧に把握し、素地能力を理解しておく。
- 2 本時に扱う教材を、何度も聴いたり、歌ったり、演奏したりし、特徴をよくとらえる。
- 3 とらえた音楽の特徴について、[共通事項]（音楽を特徴づけている要素及び音楽の仕組み<小学校>、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連<中学校>）のどれと結び付いているかを考え、本時つける力を決めだす。
- 4 教師が本時の終末で子どもがどのような姿になっていればよいか目指す子どもの姿を明らかにする。
- 5 目指す子どもの姿と決めだした本時つける力から、本時の学習課題を考え、学習内容を具体的にするなど、音楽の特徴との出会いも含め、1時間の「問題解決の過程」を明確にする。
- 6 発問や板書計画、学習形態などを考え、掲示用の楽譜や学習カード等を準備する。

授業では

導
入

展
開

終
末

子どもの姿	教師の指導・助言
<p>① 教材のよさや特徴に触れ、問いや願いをもつ。</p> <p>② 追究の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを明確にして部分に注目して聴く活動や、体を動かす活動、楽譜や歌詞・図や表などと見比べながら聴く活動など、ねらいに合った多様な活動を取り入れる。 ・子どもが聴き取ったことや感じ取ったことを表等に整理して板書し、それを基に子どもと一緒に学習問題や学習課題を設定する。 ・板書を有効に活用して共有できるようにする。
<p>③ 学習課題に沿って追究する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じた学習形態を工夫したり、学習環境を整えたりするなど、子どもの追究を支え、活動を活性化させる。 <p>(子どもたちの主体的な活動を促すために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ♪ 拡大楽譜（写真）、グループで自由に使うことができる音源、楽器、ホワイトボード等の用意。 ♪ 学習内容・活動に応じてICT機器を積極的に活用する。 ♪ 常に活動を見守り、よさを認めて賞賛したり、課題について一緒に表現して考えたりするなど、適切に支援をする。 <p>(友とのかかわりが充実するために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ♪ 個人追究、ペア追究、グループやパート別の追究等学習内容に合った追究の方法を設定する。練習のしやすい隊形にする。 <p>(イメージを豊かにするために)</p> <ul style="list-style-type: none"> ♪ 歌詞の内容を表した絵や写真、様々な視聴覚教材による音や映像を利用する等、イメージを自由に膨らませることのできる活動を設定したり環境を整えたりする。
<p>④ 学習のまとめをする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの表現活動を通して、互いに認め合ったり賞賛し合ったりするように促す。録音や録画に残して聴き返すなど工夫する。 ・発問を具体的にしたり学習カードを工夫したりして、本時の学習問題に立ち返って発言や記述ができるようにする。 ・子どもたちの発言や記述から、子どもたちと一緒に本時「何ができるようになったか」「何がわかったか」を確認し、言葉でまとめて板書する。

7 図画工作・美術

表したいこと・感じることから始まる図画工作・美術科学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- つくることのみではなく、資質・能力を育成することを目的とした授業実践が増えてきている。
- 造形遊びの実践が充実し、絵や立体、工作（絵や彫刻など）でも、生活や物語などから発想・構想するだけでなく、材料や用具から発想・構想する実践が増えてきている。
- ◆ 育成を目指す資質・能力をより明確にし、評価していくこと。
 - ◇資質・能力が身に付いた子どもの姿を具体的に予想し、指導と評価の一体化を図る。
- ◆ 子ども自身が考え、工夫して取り組むことのできる題材展開にしていくこと。
 - ◇題材名、題材の導入の工夫などによって子ども自身が表したいことを見付けられるようにし、机間指導や学習カードへの記入などで表したいことを広げ、試行錯誤しながらつくっていくことができるようにする。
- ◆ 生活を美しく豊かにするための造形や美術の働きを感じられるようにしていくこと。
 - ◇作品をつくるだけ、鑑賞するだけに終わらず、身の回りの事物に対する感じ方が変わってきたり、美術が生き方とかかわっていることに気付いたりできる授業づくりをしていく。

II 図画工作・美術科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

1 ねらいの明確化のために

- (1) 子どもの本時解決したいことや願いを明確にして、その達成のためにはどのような造形的な活動をしていけばよいか子どもが見通しもてるようにする。
 - ・形や色など造形的な視点で、子ども自身が解決の道筋を考えられるような資料提示や示範を行うことで、見通しをもてるようにし、さらに一人一人が見通しをもっているか確認する。

2 めりはりのある展開のために

- (1) 表したいことの実現へ向かっていくための個人追求を充実させる。
 - ・試行錯誤できる時間の確保、題材展開の工夫、場や材料の工夫をするとともに、友人の方法などからも学ぶことができる環境づくりを行う。
- (2) 目的を明らかにして、そのための手段として言語活動を位置付けていく。

表したいことを見付けるため 構想を練るため よさや美しさに気付いたり 味わったりするため	【方法】	【留意点】	
	マインドマップ	題名をつける	・子どもの必要感に配慮する。 ・具体物の操作を取り入れる。 ・【共通事項】が位置付いた活動 になっているか検討する。
	アイデアスケッチ	考えを伝える	
	意見を練り上げる	意見を聞く	
感じたことを語り合う	など		

3 ねらいの達成を見とどけるために

- (1) 追求の途中での姿を評価し、認めたり、支援したりするとともに、座席表などに記録する。
 - ・本時のねらいを達成している子どもの姿を、具体的に思い描いて授業に臨む。
- (2) 学習した内容を振り返る場面を設定する。
 - ・学習課題に照らして、追求したことや新たに気付いたことを、形や色などの造形的な視点で書いたり発表したりして、自分としての意味や価値をつくりだした実感がもてるようにする。

授業の前に

- 1 【主眼の確認】学習指導要領の指導事項を基につける力を明確にし、ねらいを達成している子どもの姿を具体的に思い描く。
- 2 【学習課題を明確にするための準備】どんな資料提示、示範、投げかけをすれば、子ども自身が考え、造形的な見通しをもって自分の力で追求できるようになるかを検討して準備する。
- 3 【学習環境の整備】十分な用具や材料を用意し、安全や活動のしやすさに配慮して環境を整える。

授業では

	子どもの姿	教師の指導・助言
導入	①願いをもつ ・私はこんな感じを表したい。 ②見通しをもつ ・先生や友だちは、こんな工夫をしているのか。 ・この方法を使うと自分の表したい感じが出せそうだ。	1 学習課題につながる言葉がけや資料提示をする。 ア 子どもの願いを確認し、ここまでの成果や困っていることを問う。 イ 示範をしたり、提示資料の比較や操作などを子どもと共に行ったりしながら、気付いたことを出し合うなどして、見通しをもてるようにする。 ウ 子どもの気付きを的確に表す言葉（造形要素）で意味付け、本時の追求の方法が明確になるようにする。 2 子どもと共に学習課題を据え、板書する。 ア 見通しを問い、学習課題につなげる。 イ 一人一人が見通しをもっているか確認する。
展開	③表現意図に沿った造形的な試み をしながら追求する ・まずこんな感じに工夫しよう。 ・材料や用具の生かし方を考えていたら、表したいことが広がってきた。 ・思うほど〇〇な感じが出ないな。 ・別の工夫はできないかな。友だちの追求を聞いてみよう。 ・説明することで、何をすればいいか見えてきた。 ・新たな工夫の視点を見付けた。試してみよう。	3 机間指導で子どもの発想や構想、技能、鑑賞のよさをとらえ、見守ったり、励ましたりする。 ア 机間指導で子どもがつける力を発揮している姿を見逃さずに励ます。 イ 「表したいことをどのように表そうとしているか」について対話し、迷いや見通しを整理する。 ウ 個で考えることと、集団で検討することを子どもが必要に応じて使い分けられるようにするために、グループで机を合わせることも適宜取り入れる。 エ 中間鑑賞などのグループ活動は、子どもの必要感に配慮して位置付ける。 オ 子どもの姿や指導したことを座席表や名簿、画像などに記録して指導に生かすとともに、主眼を達成できずにいる子どもに対して、個別に支援する。
終末	④本時を振り返り、次時への見通しをもつ ・このような追求ができた。次はこのような追求をしたい。 ・新たに困ったことがある。友だちはどう考えているだろう。	4 本時の学習課題に照らして自分の高まりや次への課題を書いたり発表したりする場面を設ける。 ア できた作品だけでなく、表したいことを見付けられたこと、製(制)作の見通しをもつことができたこと、工夫して表せたことを共感的に受け止め、全体に広げていく。

8 体育・保健体育

動きの高まりや学び方のよさ、健康の大切さを実感する体育・保健体育の学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- 誰もが楽しく取り組める授業を目指し、児童生徒の実態を出発点とした授業づくりが行われている。
- 運動の課題やポイントを理解（わかる）したり、友とかかわって考えたり（かかわる）する活動を位置付け、それらの活動の中で技能向上（できる）に迫る問題解決的な学習を仕組んだ授業が増えている。
- ◆単元でつける力を明確にし、その力に計画的に迫っていく単元計画の工夫。
 - ◇単元終末で目指す児童生徒の姿を具体的にイメージし、基礎基本の習得とそれらを活用する学習活動をバランスよく位置付けるとともに、1時間ごとのつながりがある単元計画にしましょう。
 - ◇「技能」（運動時間の確保）とともに、「態度」、「思考・判断」（中学校では「知識、思考・判断」）の力がバランスよく高まるよう、学習活動や学習形態などを工夫しましょう。
 - ◇保健学習では、身に付けた知識を使って考える学習活動の工夫・充実を図りましょう。
- ◆児童生徒にとって必要感があり、各時間のねらい達成につながる言語活動の充実。
 - ◇「必要感・拠り所・方法」の3点を揃え、言語活動を充実させていきましょう。
 - ① 児童生徒の問題意識（「どうしたら目指す動きができるのだろうか」）を取り上げて共有する。
 - ② 助言や話し合いのための拠り所となる資料（ex. 技術ポイントカード）やゲーム記録等を用意する。
 - ③ 発達段階等に合わせ、どのように伝えればよいのかについて具体的な方法を確認する。

II 体育・保健体育における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

ねらいからつなげる
1時間の授業づくり

ねらいの明確化	<p>■単元はじめに、つける力を踏まえた「単元の目標」を子どもと共有し、単元の見通しをもたせる。</p> <p>□「単元の目標」を軸に単元計画や前時までの実態から、どんな問題意識（ex. 「相手に邪魔されてシュートできない」）を取り上げればよいかをはっきりさせて学習問題を設定する。【右頁2】</p> <p>□資料提示（絵図、動画等）や示範から児童生徒の気付きを取り上げ、「何に着目し、どのように追究すればよいか」を明確にし、学習課題を全体で共有し板書する。【3】</p> <p>※単元の進み具合に応じ、特に、単元終盤では、個やグループごとの課題を大切にします。</p>
めりはりのある展開	<p>■共有した学習課題を、個やグループで具体化する場（動いて試す、話合う等）を位置付ける。</p> <p>□運動の特性・魅力に迫り、本時のねらい達成に必要な学習活動や学習形態を吟味する。【授業前】</p> <p>□本時のねらい達成に向け、「動くー考えるーまた動く」と試行錯誤しながら追究を深めていけるよう、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 易しい練習の場やICT機器、学習資料等を用意し、活用できるようにする。【4】 ② 友とかかわり合いながら「考える」言語活動を位置付ける。【5】（以下は例） <ul style="list-style-type: none"> ・個のめあてや技能のポイントに沿って仲間の動きを観察し、アドバイスし合う活動。 ・ゲーム等を観察・分析し、作戦等が目指すプレイにつながっているかを話合う活動。 ・仲間のよい動きを言葉にして具体的に伝え合ったり、認め合ったりする活動。
ねらい達成の見とつけ	<p>■動きのよさや高まり、ねらい達成につながる気付きやかかわりのよさをとらえ、積極的に伝える。</p> <p>□本時のねらいに応じた振り返りの形態（個、グループ、全体等）を選択し、効果的に組み合わせる。</p> <p>□板書した学習課題や「単元の目標」に立ち返り、学習カード等を用いて振り返る場を位置付ける。【6】</p> <p>□児童生徒による振り返りとともに、評価規準に照らして教師が見とどけた個やグループのねらい達成の姿や学びのよさを全体で共有する場を位置付ける。【7】</p> <p>□「できた」とともに、「分かった」「かかわれた」学びのよさを実感できるようにする。</p>
	<p>■単元計画に照らして本時の成果と残された問題を明らかにし、次時のねらいにつなげる。</p>

■ 単元構想の段階で

- 1 味わわせたい運動の楽しさや単元でつける力を、子どもの実態や学習指導要領・学習指導要領解説から明らかにする。
- 2 すべての子どもが運動の楽しさを味わい、単元のつける力を保障することができるよう、実態に合わせて運動を工夫するとともに、1時間ごとのねらいを明確にした単元計画を立てる。

■ 授業の前に

- 1 前時終末の姿や学習カードの記述から、子どもの問題意識をつかむ。
- 2 児童生徒の問題意識と単元計画から、本時のつける力を明確にし、授業終末の姿をイメージする。
- 3 問題解決の手がかり（着目点）を決めだし、動きのポイントを整理する。
- 4 問題解決のための練習方法や予想されるつまずきに対する手だてを考え、準備する。

■ 授業では

段階	子どもの姿	教師の指導・助言
はじめ	①準備・準備運動（ドリルを含む）を行う。	1 発達段階に応じて子どもが進められる工夫をする。 ア 安全に配慮した準備の方法を指導し、分担を決める。 イ 主運動を支える動きづくりを位置付ける。
	②本時、解決すべき問題を共通理解する。	2 学習問題を子どもとともに確認する。 ア 前時終了時の子どもの問題意識を整理する。 イ 目指す姿とのズレを共に確認し、問題の共有につなげる。
	③問題解決に向けて、解決の見通し（着目点、練習方法、アドバイスの観点等）をもつ。	3 子どもと共に学習課題を据え、板書する。 ア 解決の手がかりとなる着目点を示す。 （子どもの気付き、示範、モデルの比較 などから） イ 動きのポイントや練習方法を示す。 （アドバイスし合う観点、課題別の練習方法 など）
なか	④個人やペア、グループなどで課題練習をする。（追究1） ※実際にやってみることで、新たな課題が立ち上がることが多い（学習課題の更新へ）。	4 追究の姿を把握し、個別指導・助言を行う。 ア 短時間で全体を回り、取りかかりの様子をつかむ。 イ 支援が必要な個やグループに積極的にかかわる。 （予想されるつまずきに対する支援を準備しておく） ウ 課題解決の方法や動き、解決に向けたかかわりのよさを認め、全体に紹介する。
	⑤ゲーム・記録測定・発表会・相互評価などを行う。 （追究2）	5 アドバイスをする場を位置付け、助言を行う。 ア アドバイスの抛り所となるゲーム記録を取り入れたり、アドバイスし合う観点を再確認したりする。 イ 課題に照らして、よい動きを賞賛するとともに、問いかけにより、つかんだコツを言葉として引き出す。 ウ 友とのかかわりのよさを賞賛する。
まとめ	⑥1時間の学習を振り返る。 ・ペアやグループで ・個人で	6 学習課題の達成を見とどける。 ア 課題に対して互いに成果を認め合う場を設ける。 イ つかんだコツや解決に向けて考えたこと、工夫した取組を言語化できる工夫をする（カード等）。
	⑦本時の学習の成果と残された問題を全体で共有する。	7 本時の成果と残された問題を明らかにする場を位置付ける。 ア 「何が分かり、何ができるようになったのか、そこにはどんなかかわりがあったのか」を発表する場を位置付ける。 イ 本時の成果を子どもの言葉でまとめ、板書する。 ウ 残された問題を次時の学習問題として整理する。

9 家庭，技術・家庭

生活に生きて働く力を育てる家庭，技術・家庭の学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題，改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

○製作や実習において，作品を完成させることを目的とした授業から，学習指導要領を基に，本時のつける力を明確にした授業が増えてきている。

◆追究の場面で，子どもが活動の目的や方法等を理解しないまま取り組んでいる授業がある。

◇子どもが自ら生活や社会の中から問題を見付け，設定した課題について，習得した知識や技能を活用しながら解決していく問題解決的な学習を，より一層充実させていく。

II 家庭科，技術・家庭科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

教材研究で心がけたいこと

<ねらいを明確にするために>

□子どもの実態を把握し，生活や社会の中で，子どもにとってどのようなことが問題になり，その問題をどのように解決していくかをイメージしながら，題材や本時の授業を構想する。

□子どもが問題を解決する手がかりとなる着目点を決めだし，どうすれば子どもが着目点に気付くか（示範・サンプルの提示・子どもの試行 等）を考える。【→右頁2ア】

例 材料の切断面を〇〇にしたいと願う子どもに，のこぎりをひく際の「目線」や「姿勢」に着目できるよう，教師が示範を行う。

<めりはりをつけるために>

□1時間の授業の中でどのような学習活動を位置付ければ，子どもが自ら設定した課題を解決し，ねらいを達成した喜びや，学び合うよさを味わえるかを構想する。

・ペア・グループ・全体の共同追究等，学習形態を工夫する。【→右頁3イ】

例 子どもがのこぎりをひく際は，自分の目線や姿勢がどうなっているかを確認できないので，ペアで互いに見合い，評価し合う学習活動を取り入れる。

・追究の過程や結果を言葉や図表等に整理し考察したり，それを使って考えたり説明したりできる活動を取り入れる。その際は，製作や実習等における観察や比較の視点，内容等（何をどのように行うのか 等）を明確に示せるようにする。【→右頁3ウ】

<ねらい達成を見とどけるために>

□子どもにとって，何をどう振り返ればよいかを明確になるよう発問を工夫する。【→右頁4ア】

例 「今日の学習課題は〇〇でした。このことについて，今日の授業を通して何がどのようにできたのか/分かったのか，学習カードに記入しましょう。」

□題材の終末では，生活の技能の高まりや生活をよりよくするための考え方を，学習カード等への記述や作品などで振り返る活動や，学んだことを生活に生かしていく方法を考える活動等を位置付ける。

授業中に心がけたいこと

教師がねらいの達成を見とどけるだけでなく，子ども自身もねらいを達成した喜びや，学び合うよさを味わえるようにしましょう。

そのために教師は，授業の終末に振り返りの時間を確保するとともに，子どもが常に学習課題に立ち返りながら追究できるよう，課題の解決につながる根拠や理由を子ども自身から引き出す声をかけていきましょう。【→右頁3ア】

例 「できたね」⇒「何に気を付けたらできたの?」「どうしたらそうなったの?」

- 学習指導要領の内容を基に、本時のつける力と評価規準を確認する。
- 前時に見とどけた子どもの姿や願いから、本時のねらいを達成した子どもの姿をイメージし、授業を構想する。
- 本時のねらいの達成に向けた学習活動、学習形態、発問、板書計画等を考え、教具や学習カード等を準備する。
- 安全面、衛生面の観点から、本時の指導内容や展開を確認する。

授業では <ねらいを明確に めりはりをつけて ねらいの達成を見とどけて>

	子どもの姿	教師の指導・助言
課題把握	<p>① 学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やってみたい。／考えてみたい。 ・ できるようになりたい。 ・ もっと～してみたい。 ・ なぜ、うまくいかないのかな。 	<p>1 子どもと共に学習問題を確認する。</p> <p>ア 子どもが目指していること、困っていること等を全体で取り上げ、学習問題を共有できるようにする。</p>
	<p>学習問題 例「～（どうすればよい）だろうか」、「□□しよう」</p>	
追究・実践	<p>② 解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ◇◇すればできそうだ。 ・ ◇◇のようにやってみたい。 ・ ◇◇について考えてみたい。 	<p>2 子どもと共に学習課題を設定する。</p> <p>ア 示範、サンプルの提示、既習事項の確認、子どもの試行等を行い、子どもが解決の手がかりとなる着目点に気付き、解決の見通しがもてるようにする。</p> <p>イ 子どもが気付いた着目点を板書しながら焦点化（具体的に何をどのよう追求するとよい）し、学習課題を設定する。</p>
	<p>学習課題 例「◇◇（解決の見通し）して、□□しよう」</p>	
整理・発展	<p>③ 見通しに沿って追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ◇◇を意識してやってみよう。 ・ これでいいのかな。 ・ うまくいかないな。 ・ 友だちの考えを知りたいな。 ・ 友だちに伝えたいな。 ・ 友だちのいいところを、自分にも取り入れてみよう。 ・ 友だちが気付いたことは、自分では気付かなかったことだな。 ・ ～したから、～になったんだ。 ・ ～に気を付けて、もう1回やってみたい。 	<p>ウ 安全面や衛生面、活動時間等を確認する。</p> <p>3 子どもの追究の姿を把握し、指導・助言する。</p> <p>ア 子どもの姿をとらえながら、活動の様子を見守ったり、課題の解決につながる根拠や理由を引き出すような声をかけたりする。</p> <p>イ 活動の目的や方法等を明確に示し、子どもが理解した上で取り組めるようにする。</p> <p>ウ 追究の過程や結果を学習カード等に記録しながら取り組むよう促す。</p> <p>エ ねらいの達成が難しい子どもには、問いかけや見本の提示、補助具の提供などの個別支援をする。</p>
	<p>④ 学習課題について振り返る。</p> <p>[根拠・理由+結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ～のように～したから、～できた。／分かった。 ・ ～から、～ができた。／分かった。 <p>[次時や生活への見通し]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日学んだことは、家でもできそうだ。／生活を便利にしているんだ。 ・ 次回の授業では、～をやってみよう。／試してみたい。 	<p>4 学習課題に照らして、ねらいの達成を見とどける。</p> <p>ア 追究過程や結果について、根拠や理由とともに振り返り、学習カード等に記入するように促す。</p> <p>イ 子どもの言葉で整理しながらまとめ、板書し、本時の追究を価値付ける。</p> <p>ウ 子どもの次時への願いを把握する。（次時の学習問題につなげる。）</p>

10 外国語活動

Today's Point で「振り返り」が充実する外国語活動

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題
◇改善の方向

L G=Lesson Goal
T G=Today's Goal
T P=Today's Point

- HRT が多くの英語を使って、活動の指示を出したり児童をほめたりしながら進める授業が増えている。
- ◆ コミュニケーション活動における、場面づくりについての教材研究が不足している授業が見られる。
- ◇ 意味のあるやりとりになるように、コミュニケーションの目的や状況、やりとりする相手を明確にした場面を設定する。
- ◆ 音声で英語をとらえる場面で単語や会話例を文字で提示するため、児童が文字を読むことに難しさを感じ、英語に苦手意識をもたせてしまったり、会話例があるためにその通り話そうとして、やりとりが形式的な練習のようになってしまったりする授業が見られる。
- ◇ 音声による楽しい活動（チャンツや歌、ゲーム等）を通して、児童が英語の音声の特徴や表現に十分に慣れ親しんでから、自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション活動を行う。
- ※ 「慣れ親しむ」：児童が何度もその表現等に触れることにより、抵抗なく聞いたり言ったりしている姿（発音や文法の正しさ、言語材料の定着は求めない）
- ◆ 教師はつける力に沿って児童の姿を評価して伝えていなかったり、「振り返り」の記述が活動の感想になってしまい、児童がねらいの達成を自覚できないまま終わってしまったりする授業が見られる。
- ◇ 児童は T G 達成について T P で授業を振り返り、教師は T G 達成について活動中に観察し評価する。

II 外国語活動における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

【ねらいを明確にする】

- 単元で扱う表現を用いたコミュニケーション活動を L G として単元終末に設定し、第 1 時に児童と共通理解を図る。また、掲示等で工夫するなどして児童が毎時間 L G を意識できるようにし、単元展開は L G につながるようにする。
- T G では、「どんな活動を（活動内容）」と「どのように行うのか（到達目標）」をはっきりと示す。
- T G 達成の姿をモデル提示等で具体的に示すなど、T P に児童が気付けるよう工夫する。
- T G と T P は教師が事前に構想する。授業では児童とのやりとりを通して設定し、児童の言葉で端的に板書する。やりとりの中では、「なぜそう思うのか」など、発言の根拠を問い返すとよい。
- ※ 「Today's Point」：児童が取り組む課題や教師や児童が T G を達成したかを評価する際の観点
- 授業のおおまかな流れを Today's Menu として示すなど活動内容が分かるように工夫するのもよい。

【めりはりのある展開にする】

- 「外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」をねらう授業の場合
 - ・児童が「聞く活動」、「聞いて理解する活動」、「聞いて理解し反応する活動」「話す活動」を段階的に体験することを通して、英語の音声の特徴や基本的な表現に十分に慣れ親しませていく。語順を正しく理解するまで繰り返し言わせたり、覚えさせたりすることではないことに留意する。
- 「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」をねらう授業の場合
 - ・児童の興味・関心のある身近な題材を用意し、児童が話す英語はシンプルで短いものにする。
 - ・単純で短いやりとりであっても、児童の考えや気持ちの入ったものにする。（相手意識の育成）

【ねらいの達成を見とどける】

- 授業の終末では、T G が達成されたかを T P に沿って児童が自己評価する時間を十分確保できるように、導入から展開までの学習活動を精選する。
- 教師は児童に「できるようになったこと」や「自分の学びや友の学びのよさ」を振り返るよう促し、教師自身は活動中に把握した児童の T G が達成された姿や学び合いのよい姿を紹介する。

授業の前

- ①学習指導要領にある外国語活動の目標に基づき、授業のねらいを決める。
- ②そのねらいが達成された児童の具体的な姿のイメージをもとに、TGとTPを構想する。
- ③TGを設定する時に児童が「やってみよう」という意識になるように、授業の導入場面を考える。
(ALTを積極的に活用するなど)
- ④TPにつながる児童の考えや気づきを引き出すための発問を準備する。
- ⑤ALTとTTをする場合には、授業のねらい、学習活動、分担などについて打ち合わせをする。

授業では

教師の指導・助言の具体例			
導入	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】をねらう場合</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「色や数」などの語句や表現、「買い物」などの場面を示し、児童の意識に沿って、本時の活動内容と到達目標をTGとして設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> Today's Goal 「色や数を表す英語や『買い物』で使う表現を、自信をもって言えるようにしよう」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の終わりに『言えるようになってきたぞ』となるにはどうしたらいいかな？」のように、児童からTPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> Today's Point ・大きな声で何度も言う→自信がつく ・音やリズムをよく聞いてまねする </div> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成】をねらう場合</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> Today's Goal 「旅行に必要なものを、みんなで楽しく買い物しよう」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい買い物になるには、どうしたらいいかな？」のように、児童からTPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> Today's Point ・色、商品、数をはっきり言う（共通） ・買えるまで英語で注文する（客の役） ・自分から笑顔で話しかける（店員の役） </div> </td> </tr> </table>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】をねらう場合</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「色や数」などの語句や表現、「買い物」などの場面を示し、児童の意識に沿って、本時の活動内容と到達目標をTGとして設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> Today's Goal 「色や数を表す英語や『買い物』で使う表現を、自信をもって言えるようにしよう」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の終わりに『言えるようになってきたぞ』となるにはどうしたらいいかな？」のように、児童からTPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> Today's Point ・大きな声で何度も言う→自信がつく ・音やリズムをよく聞いてまねする </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成】をねらう場合</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> Today's Goal 「旅行に必要なものを、みんなで楽しく買い物しよう」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい買い物になるには、どうしたらいいかな？」のように、児童からTPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> Today's Point ・色、商品、数をはっきり言う（共通） ・買えるまで英語で注文する（客の役） ・自分から笑顔で話しかける（店員の役） </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】をねらう場合</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「色や数」などの語句や表現、「買い物」などの場面を示し、児童の意識に沿って、本時の活動内容と到達目標をTGとして設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> Today's Goal 「色や数を表す英語や『買い物』で使う表現を、自信をもって言えるようにしよう」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の終わりに『言えるようになってきたぞ』となるにはどうしたらいいかな？」のように、児童からTPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> Today's Point ・大きな声で何度も言う→自信がつく ・音やリズムをよく聞いてまねする </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成】をねらう場合</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> Today's Goal 「旅行に必要なものを、みんなで楽しく買い物しよう」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい買い物になるには、どうしたらいいかな？」のように、児童からTPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> Today's Point ・色、商品、数をはっきり言う（共通） ・買えるまで英語で注文する（客の役） ・自分から笑顔で話しかける（店員の役） </div>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【4K（「聞く」「体を動かす」「かかわる」「気付く・考える」活動）＋1K（教師の声がけ）】を意識し、授業の流れにめりはりをつける。教師も活動に参加し、児童の姿を見とどける。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・HRTとALTは積極的に英語を多く使う。 ・「英語の音声の特徴やリズムに気付く」、「英語の音声を聞いて、体で反応する」、「単語や短い英文で反応する」など、ねらいを明確にし、TGの達成につながるように、ゲームやチャンツ、歌などの活動を配置する。 ・1つ1つの活動時間は、児童の学習意欲が継続する長さにし、1時間の授業の中で行う活動数は2～3程度にする。 ・発話の前に、聞く活動を十分に行う。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをする相手を明確にすることで、児童が相手を意識したやりとりができるようにする。 ・「相手が言ったことに応じられるように、どんな言葉に着目して聞けばいいのか」や「相手に気持ちが伝わるように、どんな言い方で言えばいいのか」など、相手意識をもって伝え合う場になるようにする。 ・HRTとALTも活動に加わり、児童の積極的な姿を見とどけ、具体的にほめる。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTとALTは積極的に英語を多く使う。 ・「英語の音声の特徴やリズムに気付く」、「英語の音声を聞いて、体で反応する」、「単語や短い英文で反応する」など、ねらいを明確にし、TGの達成につながるように、ゲームやチャンツ、歌などの活動を配置する。 ・1つ1つの活動時間は、児童の学習意欲が継続する長さにし、1時間の授業の中で行う活動数は2～3程度にする。 ・発話の前に、聞く活動を十分に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをする相手を明確にすることで、児童が相手を意識したやりとりができるようにする。 ・「相手が言ったことに応じられるように、どんな言葉に着目して聞けばいいのか」や「相手に気持ちが伝わるように、どんな言い方で言えばいいのか」など、相手意識をもって伝え合う場になるようにする。 ・HRTとALTも活動に加わり、児童の積極的な姿を見とどけ、具体的にほめる。
<ul style="list-style-type: none"> ・HRTとALTは積極的に英語を多く使う。 ・「英語の音声の特徴やリズムに気付く」、「英語の音声を聞いて、体で反応する」、「単語や短い英文で反応する」など、ねらいを明確にし、TGの達成につながるように、ゲームやチャンツ、歌などの活動を配置する。 ・1つ1つの活動時間は、児童の学習意欲が継続する長さにし、1時間の授業の中で行う活動数は2～3程度にする。 ・発話の前に、聞く活動を十分に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをする相手を明確にすることで、児童が相手を意識したやりとりができるようにする。 ・「相手が言ったことに応じられるように、どんな言葉に着目して聞けばいいのか」や「相手に気持ちが伝わるように、どんな言い方で言えばいいのか」など、相手意識をもって伝え合う場になるようにする。 ・HRTとALTも活動に加わり、児童の積極的な姿を見とどけ、具体的にほめる。 		
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を十分に確保し、児童が本時の学習内容をきちんと振り返られるようにする。 ・児童はTGやTPに沿ってねらいの達成状況や「自分や友の学びのよさ」を振り返り、学習カードに記述する。数名の児童に発表を促し、全体で本時の学習を振り返る。 ・教師は活動中に見とどけたTGを達成している具体的な姿を全体によさとして伝える。 		

11 外国語（英語）

Today's Point で「ついた力」が実感できる英語学習

I 学習指要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

LG=Lesson Goal TG=Today's Goal TP=Today's Point

- 生徒が主体的に取り組むためにTGやTPの設定をし、それらに基づいた振り返りを行っている。4技能を統合して活用する言語活動を取り入れた授業が増えている。
- ◆ 文字を書いた後から音声化したり、英文を書いた後から話したりする授業が多い。
- ◇ 小学校での外国語活動を生かして音声での活動から文字にしたり英文を書いたりしていくようにする。
- ◆ 1時間の中に言語材料の習得をねらう言語活動と4技能の活用をねらう言語活動(指導事項(ウ)(エ)(オ))が混在している。
- ◇ 言語材料について理解したり練習したりして習得を図るのか、言語材料を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うのか、授業のねらいを明確にして言語活動を行う。

II 外国語科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

【ねらいを明確にする】

- 単元で「つける力」を決めだし、それを具現する学習場面を単元終末にLGとして位置付ける。
- 単元における「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」については、到達目標を「英語を使って○○できる」のような形で設定する。
- 単元展開は、各時間がLGに向かうように構想する。各時間の「つける力」をTGとして位置付ける。
- TGとTPは教師が事前に構想する。授業では児童とのやりとりを通して設定し、生徒の言葉で端的に板書する。やりとりの中では、「なぜそう思うのか」など、発言の根拠を問い返すとよい。

※「Today's Point」：生徒が取り組む課題や教師や生徒がTGを達成したかを評価する際の観点

【めりはりのある展開にする】

- 「言語材料について理解したり練習したりする習得を図る言語活動」を1時間の授業で行う場合、「聞く・読む・話す・書く」活動をバランスよく行い、4技能の活動を通して言語材料の習得を図る。
- 言語活動の充実を図るために、「聞いたことや読んだことを基に自分の意見を話したり書いたりする」などの複数の技能を統合的に活用する活動を取り入れる。
※スピーチなどを聞いたり、読み物教材などを読んだりして理解したことを基に問答したり意見を述べ合ったりする活動（スピーチについてのQ&A、ディスカッション、レポートの作成等）
- 生徒がTPを意識して言語活動をするように、途中で評価する場を設ける。
- TPの観点に沿って意見交換やアドバイスをする場面を設ける。

【ねらいの達成を見とどける】

- 授業の終末では、TGが達成されたかをTPに沿って生徒が自己評価する時間を十分確保できるように、導入から展開までの学習活動を精選する。
- 教師は生徒に「できるようになったこと」や「自分の学びや友の学びのよさ」を振り返るよう促し、教師自身は活動中に把握した生徒のTGが達成された姿や学び合いのよい姿を紹介する。

授業の前に

- ①学習指導要領にある外国語の目標や指導事項に基づき、授業のねらいを決める。
- ②そのねらいが達成された生徒の具体的な姿のイメージを基に、TGとTPを構想する。
- ③TGを設定する時に生徒が「やってみよう」という意識になるように、授業の導入場面を考える。
(ALTを積極的に活用するなど)
- ④TPにつながる生徒の考えや気づきを引き出すための発問を準備する。
- ⑤CAN-DOリストの到達目標を参照する。(例)「自分の薦めたい名所について、自分の気持ちを加えて3文程度のまとまりのある文章で紹介文を書くことができる」

授業では

教師の指導・助言の具体例	
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【言語材料を理解したり練習したりして、その習得を図ること】をねらう場合</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の題材内容や言語材料について口頭で導入する。場面設定などを工夫し、興味をもって言語材料を使いたくなるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">Today's Goal</p> <p>「There is / There are を正しく使って、部屋の様子を友だちに伝えよう」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・『There is / are ～ を正しく使えたぞ』となるには、どこに気をつけたらよいか?」のように、TPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">Today's Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートを見ないで言う ・正しい発音で言う ・綴りを正確に書く ・語順, is/are, in/on 等の使い方 </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【言語材料を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うこと】をねらう場合 (CAN-DO リストの活用)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の言語活動のモデルを示し、活動への意欲を高めるとともに、活動を通してつける力や、活動の手順が分かるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">Today's Goal</p> <p>「外国の方に自分の薦めたい名所が伝わるような紹介文を書こう」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・(モデルを示し)「名所のことや自分が薦めたいということがどの英文から分かるか?」のように、生徒からTPを引き出す発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">Today's Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綴りに気をつけて書く ・文の構成 <ul style="list-style-type: none"> 1 名所 2 名所の説明 3 自分がその名所を薦める理由 ・英文の量は3文以上にする </div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習だけでなく生徒が主体的に活動できるようなペア活動やグループ活動を取り入れる。 ・積極的に英語を使いながら、指示、発問、声がけ、生徒とのインタラクション等を行う。 ・活動の合間に、TGやTPの再確認をしたり、ゴールに迫る生徒の姿を紹介したりする。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・板書を基に音読練習などを工夫し、単調にならないように十分に口頭練習を行う。(読む) ・部屋の様子を表す絵を描き、there を使って「どこに何があるか」伝え合う対話活動をペアやグループで行う。(聞く, 話す) ・教師も活動に加わり、絵の内容について質問する。(聞く, 話す) ・聞き取った部屋の様子を、スペリングや語順に注意して英文で書く。(書く) </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル文や教科書の英文を参考にして、TPの文の構成を意識しながら、町の魅力を表現する英文を書く。 ・ペアやグループで互いの英文を読み合い、TPに沿って「まとまりのある文章」が書けているかアドバイスし合う。 ・アドバイスを基に書き直す。 ・完成した紹介文を音読練習し、ペアやグループ内の友達にシートを見ないで伝える。(言語材料の定着を図る活動) </div> </div>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を十分に確保し、生徒が本時の学習内容をきちんと振り返られるようにする。 ・生徒はTGやTPに沿ってねらいの達成状況や「自分や友の学びのよさ」を振り返り、学習カードに記述する。数名の生徒に発表を促し、全体で本時の学習を振り返る。 ・教師は活動中に見とどけたTGを達成している具体的な姿を全体によさとして伝える。

12 道 徳

「考え、議論する」ことを通して、道徳性を養う道徳学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題と改善の方向

- 授業前に、本時でねらう道徳的価値について児童生徒の「よさ」と「課題」を明らかにした上で、育てたい児童生徒の姿を考え、構想する授業が増えてきている。
- 「考える道徳」「議論する道徳」への転換を意識して、各学校が児童生徒の発達段階や実態に応じて様々な指導方法の工夫に取り組んでいる。
- ◆グループや全体での話し合い活動を行うが、意見を述べるだけで終わり、ねらいとする道徳的価値について考えを深めるまでに至らない授業がある。
- ◆心情理解のみに偏らない発問のあり方や、授業全体の時間配分が十分工夫されていない授業がある。



◇「考え、議論する道徳」への転換を意識して、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的な思考を促す「発問」や「指導方法」を吟味し、適切に設定する。

II 道徳科における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

1 ねらいの明確化

児童生徒とねらいを共有するには？→ 明確な指導観をもち、導入場面では本時のねらいとする道徳的価値への方向付けをする。導入は端的に行う工夫をし、展開や終末の時間を十分に確保できるようにする。

指導観

- その時間のねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。**価値観**
- ねらいとする道徳的価値について、児童生徒がこれまで何を学び、今どのような状況にあるのかを確認し、育てたい子ども像をもつ。**児童生徒観**
- ねらいとする道徳的価値についての明確な考えと育てたい子ども像を基に、教材の活用の仕方を明らかにする。**教材観**

2 めりはりのある展開 ～児童生徒が主体的に学ぶために指導方法を工夫する～

どのように工夫するか？→ 指導方法の工夫例として、次のようなものが考えられる。

- 教材提示の工夫…児童生徒の発達段階や実態に応じて、より効果的な教材提示の工夫をする。
教材例) 場面絵、読み聞かせ、紙芝居やペープサート、DVDや写真等の視聴覚教材
- 発問の工夫…児童生徒の思考を予想し、まず授業のねらいに深くかかわる中心的な発問を考え、次にそれを生かすために、その前後の発問を考えるようにする。(発問内容の具体例については右頁を参照)
- 話し合いの工夫…児童生徒の道徳的価値に関する考えがより深まるよう、考えを出し合う、まとめる、比較するなど、目的に応じた話し合いが行われるような工夫をする。
活動例) 小グループでの対話、付箋や画用紙の活用、数直線や氏名札の活用
- 書く活動の工夫…ノートや学習カードを利用して児童生徒の学習を継続的に深めたり、成長の記録として活用したり、評価に生かせるよう工夫をする。

3 ねらいの達成の見とどけ

どんな姿を？→ ねらいとする道徳的価値に対して、例えば一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展している姿や、自分自身との関わりの中で深めている姿をとらえる。

何から？→ (発言や表情の)観察や会話、学習カードやノートの記述内容などを通して見とどける。

評価の内容は？→ 発達の段階に応じて、(自らの成長が実感できるように)よい点をほめたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりする。

授業の前に

発問の意図は明確か？→ 道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に、人間理解や他者理解を深めていくように発問を構成する。

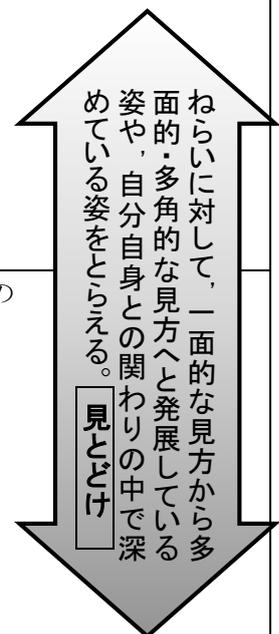
価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること
 人間理解：大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること
 他者理解：感じ方や考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

終末の発問はこれからの生き方について考えさせたりすることにつながっているか？

→ ねらいとする道徳的価値や、これからの生き方についての考えを深める場面を位置付ける。

授業では

	子どもの姿	教師の指導・助言
導 入	① ねらいとする道徳的価値についての追求意欲を高める。	1 本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 例「なぜ■■(道徳的価値)は大切なのだろう」 「■■(道徳的価値)をもつためにはどうすればよいだろう」
展 開	② ねらいとする道徳的価値についての自覚を深める。 ・〇〇と思っただろう ・できる。そうすることはいいことだから ↓ ・できないかもしれない 実際にやってみると勇気が必要だと思った ↓ ・きっと●●という気持ちになって△△したのだと思う ↓ ・■■を大事にするには主人公のように●●を持つ必要がある。それは自分も相手も大切にしているから ↓	2 自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深めるような展開とする。 ○教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。 例「主人公はこのときどんな気持ちだっただろう」 「自分にも主人公のように考え、行動することができるだろうか」 指導方法の工夫の例【道徳的行為に関する体験的な学習】 実際の場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤や行為の難しさを理解する。また、その体験を基に道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 例「自分が主人公の立場だったらどんな行動をとるか。実際に演じてみよう」 ○中心的な発問で本時のねらいとする道徳的価値についての考えを深める。 例「主人公はどういう思いをもって△△をしようと判断したのだろう」 「主人公はどうして△△という行動を取ることができたのだろう」 ○授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係でとらえたり、それらを交流して、自分の考えをまとめたりする。 指導方法の工夫の例【問題解決的な学習】 問題をよりよく解決するためにはどうすればよいかを話し合うことで、問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値についての理解を深める。 例「■■(道徳的価値)を実現する上で大切なことはどんなことだろう」 「どうして、■■が大切だと思ったのですか」
終 末	③ ねらいとした道徳的価値にかかわって、これからの生き方について考える。 ・■■を大切に理由は人によって違う。実現するのは難しいかもしれないが、自分もできるようになりたい	3 ねらいとした道徳的価値についての思いや、これからの生き方について、考えをまとめることを促す。 ○道徳的価値に関する根本的な発問をする。 ○本時を振り返り、学習したことを基に、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。 例「今日の学習で感じたことや、(これからの)自分の生き方について考えたことを書いてみよう」 ○感想を聞き合ったり、学習カードに記入させたりする。 ○教師による説話 など



【参考】「道徳科における質の高い多様な指導方法について」(H28.7.22 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

13 特別活動

よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育む特別活動

I 学習指導要領実践上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- 学級活動(1)〔集団決定〕と学級活動(2)(3)〔自己決定〕の違いを意識した取組が増えてきた。
- 健康教育やキャリア教育等と関連させながら、学級活動(2)(3)を充実させる取組が増えてきた。
- ◆問題意識が高まらないまま話し合いに入る授業や、話し合いのめあてが明確でない授業が見られる。
- ◆事前・本時・事後の一連の活動について振り返る場が設けられていないことが多く、集団や自己がどのように高まったのかを実感することにつながっていない。
- ◇問題意識を高める工夫をしたり、話し合いのめあてを明確にしたりすることや、本時及び一連の活動の振り返りの場を位置付けることで、集団や自己の高まりを実感できるようにしよう。

II 特別活動における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

●…言語活動の充実を図るためのポイント

学級活動(1)
集団討議による集団目標の集団決定

学級活動(2)(3)
集団思考を生かした個人目標の自己決定

ねらいの明確化	<input type="checkbox"/> 事前指導で、計画委員会を中心にしてともに議題を選定する。 <input type="checkbox"/> 提案理由、話し合いのめあて、活動の条件(日時・場所等)を明らかにして議題を提案できるようにする。	<input type="checkbox"/> 年間指導計画に沿って題材を設定する。 <input type="checkbox"/> 問題意識や話し合う必要感を高めるために、事前にアンケート等を実施して提示する資料を作成する。
めりはりのある展開	<input type="checkbox"/> 折り合いをつけた合意形成のための指導 ・「出し合う」…提案理由や話し合いのめあてに沿って、一人一人の考えを発表する。 ・「くらべ合う」…出された考えについての意見を述べ合い、分類・整理しながら望ましい案を考え合う。 ・「まとめる(決める)」…話し合いを収束し、学級みんなの総意をまとめる。 ●思考の可視化・操作化・構造化(板書計画) ・短冊や賛成・反対マーク、思考ツールの活用	<input type="checkbox"/> 自己決定し、自己指導能力を高めるための指導 ・「つかむ」…グラフ化されたアンケート結果や映像や写真を活用したりすることで、問題意識を高め、自分の課題として受け止める。 ・「さぐる」…原因を追求したり、改善の必要性を実感したりし、解決への意識を高める。 ・「見付ける」…解決方法を、話し合いを通して考える。 ・「決める」…自分の努力行動目標を決める。 ●情報交換のための教材・教具として、ホワイトボードや付箋の活用
ねらい達成の見とどけ	<input type="checkbox"/> 話し合いのめあてに照らし合わせて決定事項を振り返る時間を位置付ける。教師は、話し合いの過程における子どもの姿を評価し、実践への意欲を高める。 <input type="checkbox"/> 実践後は、自己評価や相互評価を取り入れながら一連の活動を振り返る場を設け、集団の高まりを実感できるようにする。	<input type="checkbox"/> 具体的かつ実現可能な実践方法を決定できたかを見とどける。 <input type="checkbox"/> 一定期間継続した後に実践状況を振り返る場を設け、自己の高まりを実感できるようにし実践意欲の継続化を図る。

授業の前に

学級活動の目標や学校で定めた評価規準を踏まえ、ねらいや議題などを児童・生徒とともに吟味し決定する。

計画委員会を中心に、下記のような事前指導を行う。

- 1 議題の選定…活動に対する願いや、活動を重ねる中で気付いた問題を取り上げるなどして、子どもの願いや問題意識から話し合う目的や内容を共有できるようにする。
- 2 話し合いの段階を意識した話し合いができるように、計画委員会と共に活動計画を立てる。

計画委員会への支援として	司会者…「計画委員会の進め方」(手引書参照)を参考に、話し合いのめあてや活動の条件を整理し、学級会の進行計画を立てる。
	記録者…短冊カードなどを使って話し合いを分類・整理する板書計画を立て、学級会ノート(手引書参照)などを準備する。
	提案者…現状の問題点、考えられる解決の方法、解決後のイメージなどを文章化する。

授業では

子どもの姿

- 1 議題の確認
議題と共に「提案理由」、「話し合いのめあて」、「活動の条件」を全員で確認する。
- 2 話し合い
◇「出し合う」
思いや願いが達成されるような考えを自分の言葉で発表する。
◇「くらべ合う」
考えの共通点や相違点を明らかにし分類・整理することで、よりよい取組のあり方を探る。
◇「まとめる(決める)」
くらべ合ったことをもとに、折り合いを付けながら総意をまとめる。
- 3 振り返り
決まったことを全員で確認し、話し合いを振り返る。

授業の指導・助言

- 1 提案理由を受け、話し合う目的と内容を明確にするようにする。
・提案者の思いや願いを意識できるようにしたり、活動の条件(日時・場所等)を伝えたりして、話し合いの目的や内容を明確にする。
- 2 考えを出し合い、共通点や相違点を明らかにしながら、折り合いを付けて集団決定できるように支援する。
・「出し合う」「くらべ合う」「まとめる(決める)」といった話し合いの段階を意識できるようにする。
・人権を侵害するような発言があったときや話し合いが混乱したとき、提案理由や話し合いのめあてから逸れたときなどは、その場で指導する。
・考えをまとめやすくするために、意見の共通点や相違点を構造的に板書する。
- 3 集団決定した事や自発的に話し合いに参加した姿、互いの思いを尊重できた姿を評価し、実践への意欲を高める。
・学習カード等を活用し、話し合いのめあてに対する、自分の関わり方を振り返ることができるようにする。
・折り合いをつける姿や相手の気持ちに寄り添った発言等を認めたり、集団決定することができたことを価値付けたりする。

ね
ら
い

め
り
は
り

見
と
ど
け

授業の後に

- 1 役割分担や係を明確にするなどの実践の準備を整えて、学級会で決まったことを実践する。
- 2 事前・本時・事後の一連の活動を振り返る場を設定し、成果と課題を明らかにする。

・集団のためにどのように貢献したか、集団や自分がどのように高まったかを考え、これからの活動や自己の生き方につなげていくよう、望ましい人間関係の形成や自主的、実践的な態度の育ちの姿を評価する。

※国立教育政策研究所HPにある指導資料をご活用ください

国立教育政策研究所 特別活動 指導資料

検索



14 総合的な学習の時間

課題解決を通して、探究的に学んでいく総合的な学習の時間

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

○各学校独自の活動や地域の特色を活かした活動を実践に結び付けている取組が増えている。

◆教師による探究の過程の構想が不十分なため、探究の過程を歩んでいることが、児童生徒に自覚されていない場合がある。

◇探究的な学習の「4つのプロセス」を単元や授業の展開に位置付け、児童生徒が、探究の過程のどの段階を行っているのかはっきりと自覚できるようにする。

◆全体計画における、各学校の総合的な学習の時間の目標や育てようとする資質・能力及び態度が、職員間で十分に共通理解されていなかったり、本単元や本時でつける力、評価の観点が明確でなかったりする場合がある。

◇全体計画の内容について職員間で共通理解し、必要に応じて定期的に見直しを進める。この全体計画を基に、各学年・学級の年間指導計画や単元計画、見とどけの具体（評価規準）を構想する。

【各校の全体計画で特に確認したい内容】

①各学校の総合的な学習の時間の目標

②育てようとする資質・能力及び態度

(学習方法, 自分自身, 他者や社会
とのかわりに関すること)

③各学校において定める内容

(目標を達成するために各学校がふさわしいと
判断した学習課題)

※全体計画とは別に、年間計画も作成しましょう。

II 総合的な学習の時間における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

ねらいの明確化

一人一人の願いや疑問を明確にし、追究の見通しをもつ

○児童生徒一人一人の課題を把握し、追究のために必要な手立てを用意する。また、一人一人が本時のねらいを達成した具体的な姿をイメージしておく。

○各教科等との関連を意識しながら、実社会や実生活とのかかわりで課題を見いだすようにする。
・教師の意図的な取組による対象との出合いやそれまでの学習活動のつながりから、児童生徒の問いが自らの中に顕在化され、解決したい問題が設定されるようにする。
・問題を解決するために自分は「こうやってみたい」「こんなふうに調べてみたい」などの課題（追究の見通し）をもてるようにする。

めりはりのある展開

一人一人が課題の解決に向かって具体的に活動する

○追究に必要な手立てを講じるとともに、児童生徒のねらいを達成しつつある姿をとらえ、褒めたり、認めたり、問い返したりして、児童生徒自身が探究的な追究のよさを自覚できるようにする。

・自ら体験や制作、調査を行い、課題の解決に向けて情報を収集する場を設ける。
・集めた情報を、思考ツール等を活用して、分類したり、関連付けたりして整理・分析し、自分なりの考えをもつ場を設ける。
・友と協同的に整理・分析することで、児童生徒の考えを広げたり、深めたりする場を設ける。

ねらいの達成の見とどけ

本時の追究を振り返り、できたこと、分かったことなどをまとめ、言葉や絵等で表現する

○本時の学習活動の様子や振り返りの様子から、ねらいの達成を見とどける。単元途中での見とどけを積み重ね、単元の終末では、全体計画をもとに身に付いた資質・能力及び態度を見とどける。

・児童生徒が、探究の過程を振り返り、自らの追究のよさやものの見方や考え方の変化、さらなる追究の方向、自分の生き方につなげて考えようとしたこと等に気付く場を設ける。

※指導資料をご活用下さい。

今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開
(小学校編) (中学校編) ~文部科学省~

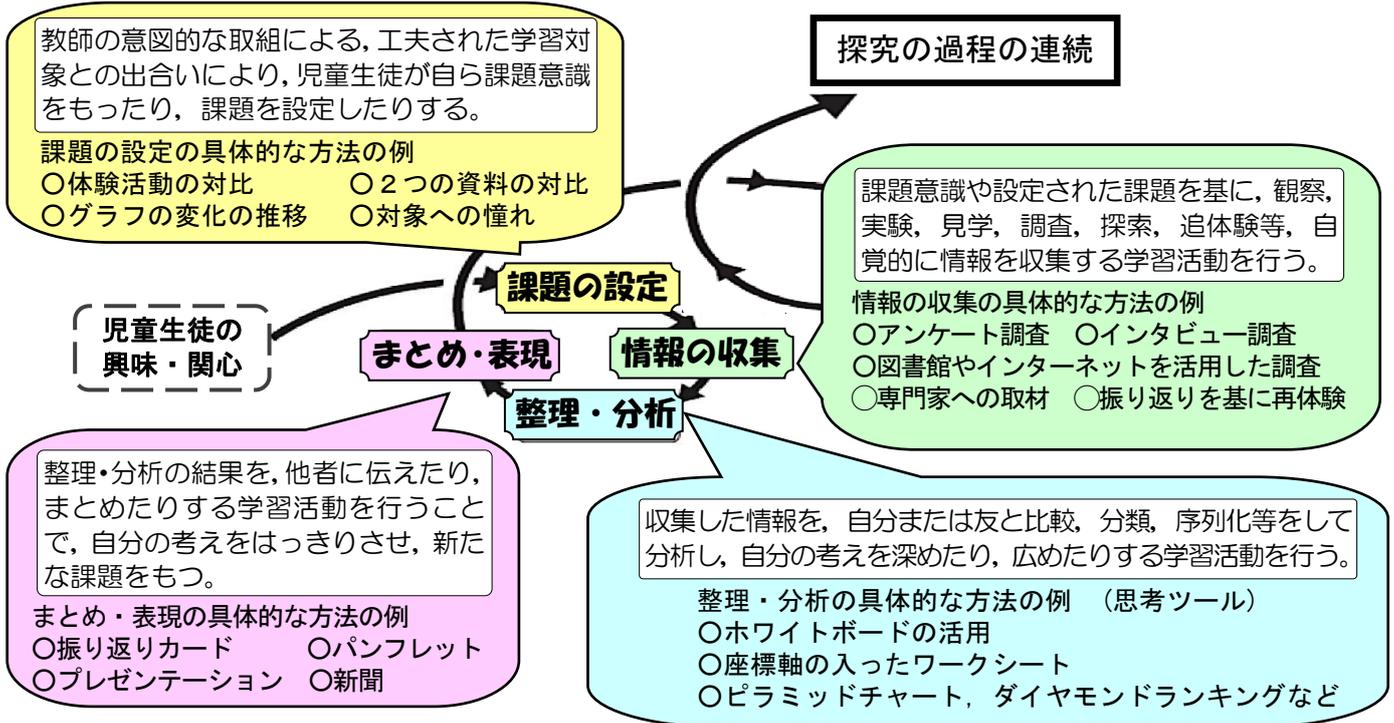
検索



- 1 育てようとする資質・能力及び態度や取り扱う学習の内容を決めだす
全体計画を基に、どのような学習の内容を通して「どんな児童生徒を育てたいか」を明確にする。
- 2 3つの視点から、中心となる活動を構想する
「児童生徒の興味・関心」「教師の願い」「教材の特性」からどのような問題解決的な活動を行うことができるか、十分に構想する。
- 3 探究的な学習(下記の図参照)として単元が展開するイメージを思い描く
児童生徒が関心や疑問からどのような活動を求め、展開していくか、出合う問題場面や解決の場面、活動を通して学ぶ事項等について考えられる可能性をできるだけ多面的、網羅的に予測する。

授業では

探究の過程における下記の「4つのプロセス」は、順番が前後することもあるし、1時間の中にすべて入る場合、各プロセスが1時間または数時間に及ぶ場合もある。



	子どもの姿	教師の指導・助言
導入	①問題の解決に向けて自分が追究したい課題を、一人一人が設定する。	ア 目指す児童生徒一人一人の具体の姿が設定されている。(座席表等を活用するとよい) イ ねらいを達成するための手立て、支援の方向が決まっている。
	②設定した一人一人の課題を探究的に追究する。	ア 一人一人が課題を探究的に追究する時間を確保する。 イ 課題を探究的に追究するための手立てを、必要に応じて講ずる。(上記 探究の過程における具体的な方法の例参照) ウ 目指す姿につながる児童生徒の具体の姿をとらえ、褒めたり、認めたり、問い返したりして、児童生徒に自覚を促すと共に、それらの情報を蓄積し、見とどけに生かす。
展開		
終末	③設定した課題の探究の過程を振り返り、自分自身の学びを自覚する。	ア 自分自身の追究を振り返り、設定した課題の探究の過程や内容、さらなる課題や問題点等を表現する場を設定する。 イ 児童生徒が、自分の探究の過程のよさや解決した課題の内容等を自覚できるような、表現方法を工夫する。(振り返りカード、歌、絵、身体活動など) ウ 必要に応じて、学級全体で共有する場を設定する。
授業後の見とどけ	単元の途中で (授業の後で)	ア 目指した具体の姿が達成されたかどうかを、児童生徒の活動の様子や学習カードの表現等の多様な評価方法を組み合わせで見とどける。そして、次時の改善や支援に生かす。
	単元の終末で	イ これらの途中の学習状況の見とどけを全て総括し、単元全体を通して児童生徒にどのような資質・能力及び態度が育まれたのかを見とどける。

15 特別支援教育

自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばして活動する特別支援教育

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題 ◇改善の方向

- 多くの学校で子どもの実態を基にした「個別の指導計画」が作成されている。
- ◆ 「個別の指導計画」を活用した子どもが主体となる授業づくりが必要。
 - ◇ 授業展開を構想したり、単元や毎時間のねらいを考えたりする際に、「個別の指導計画」の内容（教育課題、可能性の芽、本人の願い等）とのつながりを確認する。
 - ◇ 授業での支援を考える上で、「個別の指導計画」の内容（支援の方向、B表の内容等）を基に、その子が首尾よく成し遂げることができるような「できる状況づくり」を意識する。
- ◆ 「自立活動」のさらなる充実が必要。（右ページ参照）
 - ◇ 子どもたち一人一人の特別な教育的ニーズを的確に把握し、自立と社会参加のために必要な力を身に付けるため、「自立活動」のさらなる充実を図る。
- 通常の学級における「授業のユニバーサルデザイン化」等による「全員が楽しく『分かる・できる』授業」の実現に向けて取り組んでいる。
- ◆ 通常の学級における特別支援教育のさらなる充実が必要。（p. 22 参照）
 - ◇ 特別な教育的ニーズのある子どもを含めた全ての子どもたちが活躍する場があり、それを互いに認め、受け入れられる温かい雰囲気のある学級をつくる。
 - ◇ 特別支援学級に在籍している子どもや通級指導教室を利用している子どもについて、一人一人の通常の学級における授業のねらいを明確にし、「個別の指導計画」に基づいて、支援の内容や方法を通常の学級の担任や教科担任と共通理解する。

II 特別支援教育における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

【ねらいの明確化】

- ・毎時間の授業のねらいは、できるだけ子どもの具体的な姿を記述することで明確になる。その際、「個別の指導計画」の内容（教育課題、願い、支援の方向等）とのつながりを確認する。
- ・言語活動の充実を図るために、子どもたち一人一人の障がいの状態やこれまでの経験等を考慮し、各教科や領域、自立活動の内容の中から、言語活動に係る内容を選定し、相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する。

【めりはりのある展開】

- ・子どもたちが自分のもつ能力や可能性を最大限に伸ばして本時のめあてを達成できるように、一人一人の実態に合わせて、補助具を用意したり、ICT機器を活用したり、専門家と関わる場を設定したりする。
- ・体験的な活動を通して表現する意欲を高めるとともに、子どもの言語発達の程度や身体の動きの状態に応じて、考えたことや感じたことを表現する力を育成する。その際には、子どもが保有する聴覚、視覚及び触覚などを十分に活用して、具体的な事物・事象や動作と言葉を結び付けて、言語の概念の形成を図り、言葉を正しく理解し活用できるようにする。

【ねらい達成の見とどけ】

- ・授業の評価をする際は、子どもの具体的な姿を基に行う。また、教師の支援の評価も併せて行い、次時のねらいと支援内容につなげていく。
- ・子どもの育ちを適切に把握するために、授業のビデオ分析や作品・製品、ノート等成果物の確認、授業後の担当者会など、多様な方法で評価し、子どものよい点や可能性をとらえる。
- ・子どもたち自身が本時のめあての達成を自己評価できるように、学習カードを工夫したり、シールやスタンプなどの具体物を用いたり、ICT機器を利用したりする。

【自立活動の指導について】

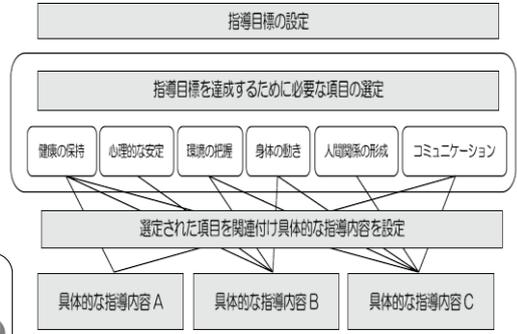
特別支援学級では、障がいによる学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導領域である「自立活動」を取り入れた指導ができる。自立活動では、6区分26項目を視点に、子どもたち一人一人の将来の自立と社会参加に向けて行うこと、子どもたちがよりよく集団に適応していくことを大切に授業を構想する。

**授業の前に
(実態把握)**

個々の障がいの状態や発達の段階等に即して指導を行う自立活動は、実態把握に基づいて目標や具体的な指導内容を設定する。自立活動は特設した時間で行う場合と学校生活全体を通して行う場合がある。

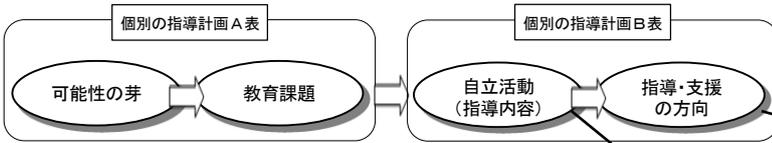
【自立活動の指導の進め方】

- ・子どもの実態を自立活動の6区分26項目から整理する(6区分全てを別々に指導するのではない。右図参照)。
- ・必要な区分及び項目を選定し、それらを相互に関連付けて、個々の具体的な自立活動の目標や指導内容を設定する。



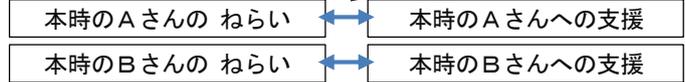
『特別支援教育 教育課程 学習指導手引書 特別支援学校編』p.118より

【個別の指導計画を活用した授業構想】



**授業では
(展開例)**

※ 「人間関係の形成」にかかわって自立活動を特設した場合の例



	学習活動	教師の支援例 (○)・評価	指導内容を設定する際のポイント
導入	<p>1 授業の流れと個のめあてを確認する。</p> <p>① 個人のめあての確認</p> <p>② 授業の流れと約束の確認</p>	<p>○授業の流れを確認できるように、写真やイラスト、スケジュール表などを提示しておく。</p>	<p>① 興味・関心を持って主体的に取り組み、成就感及び達成感を味わうことができる指導内容</p> <p>② 改善・克服の意欲を喚起する指導内容</p> <p>③ 発達が進んでいる側面をさらに伸ばすことによって、発達の遅れている側面を補う指導内容</p> <p>④ 自ら環境を整える指導内容</p>
展開	<p>2 「人間関係の形成」にかかわる活動をする。</p> <p>① 活動の仕方の確認</p> <p>② 活動の仕方に沿って行う</p> <p>※ 自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない。</p> <p>※ 子どもの興味・関心や得意な面を生かした活動内容を設定することが重要。</p>	<p>○活動の仕方を視覚化して確認する。</p> <p>○イラスト等や演示で行うことを示すとともに、ロールプレイなど、体験する機会を大切にする。</p>	
まとめ	<p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>① 個人のめあての自己評価</p> <p>※ 実態に応じて、自立活動の時間の課題の自己評価を取り入れることが大切。</p> <p>※ 活動の中での本人のよさを明確にして伝えることが重要。</p> <p>② 次回の活動の予告</p>	<p>○一人一人に応じた振り返りカードを基に、教師と振り返るなど、自己評価の場面を設ける。</p> <p>・児童生徒はめあてを達成したか。その際の支援の方法や量は適切であったか。 ⇒その子の活動の姿や様子から評価するとともに、本時の活動でよさを認めていく。</p> <p>⇒本時の児童生徒の活動の姿や様子から、次時の個へのねらいと支援について決め出す。</p>	

【考えられる指導内容】

- ・教師からの質問に答える。教師に質問する。
- ・状況に応じた友だちとの会話の仕方を学ぶ。
- ・相手の気持ちを考えて行動する。
- ・自分や相手のよいところを見つける。
- ・友だちと一緒に簡単なゲームを楽しむ。
- ・集団活動の手順やきまりを理解する。

**授業の後には
(般化)**

自立活動の願う姿は、自立活動の時間だけでなく他の場面や他の人に対しても発揮されること(生活の中での般化)が大切。原学級の担任等との連携を通して、日常生活の中でスキルの発揮・定着を進めていくよう心掛ける。また、特別支援学級でどんな学習をしていてどのような育ちが見られるのか、全校で情報を提供する機会を多く持ち、般化に向け支援の方向を共有できるように配慮する。

IV 教科等の時間における健康教育

授業の前に

- 子どもたちの実態をもとに、題材を通して「どんな児童・生徒を育てたいか」を明確にする。
- 健康教育という視点を通して、各教科等で「つける力」と健康教育で「つける力」との関連を検討し、ねらいを明確にする。その際、各教科等の特性を十分に生かすようにする。
- TT授業で行う場合は、担任や養護教諭、栄養教諭、外部講師、専科教諭等がそれぞれの立場や専門性を生かした授業への効果的なかわりができるよう検討する。

授業づくりの参考になる冊子（文部科学省・長野県教育委員会 各HPにも掲載有）

- 『「生きる力」を育む小学校（中学校）保健教育の手引き』 『楽しい食事 つながる食育』（文部科学省）
※生きる力を育むシリーズは 歯・口の健康づくりや学校安全等についても作成されています。
- 『小中学校における食育推進ガイド』 『性に関する指導の手引き』 『がん教育の手引き』
- 『学校における防災教育の手引き』（長野県教育委員会）

授業では：特別活動における例

- 「こうしなさい」と理想的な行動を教えるのではなく、子どもたちが「自分はどうするのか」を考えることを大事にする。
- 子どもたちが必要な情報を得る機会やみんなで追求する場を設け、協力して自己決定へと向かっていけるようにする。

子どもの姿	・指導上の要点 ☆工夫点
つかむ ①本時の課題を自分自身の問題としてとらえる。	・自分自身の問題として、追求する必要感がある課題を設定する。 ☆自校の健康診断、全国体力・運動能力、運動習慣等調査、事前アンケート結果、現状を示す写真や映像の提示 等
さぐる ②原因を追求する。	・改善の必要性等を実感し、改善すべき点に気付くようにする。 ☆子どもたちが必要とする、活用できる情報を提供する。
見つける ③解決方法を考える。	・みんなでアイデアを出し合いながら解決や対処の仕方を話し合い、集団思考を生かした自己決定へと向かっていけるようにする。 ☆身近な日常生活の体験や事例等を用いた話し合い、ブレインストーミング、応急手当などの実習、実験 等 ・グループ活動だけで終わらせず、全体での共有や情報交換、それを受けた個人追求等の時間も確保する。
決める ④自分の行動目標を決める。 （自己決定）	・自分の生活の質を高めようとしている姿につながったかを見とどける。 ・「いつ」「どんなふうに」「目標とする具体的数値」等を明確にし、具体的な行動目標として書くことができるようにする。 ・主体的に話し合いに参加した姿や、考えを深めた発言等を認め合い、自己の高まりの実感や実践意欲へとつなげる。 ☆自己評価がしやすく、成果を実感できるようなワークシートを作成する。

授業の後に

実行する 決めたことを実行する

- 定期的に振り返りの場を設け、実践意欲の継続化を図る。目標を更新しながら継続していく。

【例】一週間ほどやってみて、実践状況を話し合う。朝の会や帰りの会の時間を利用する。

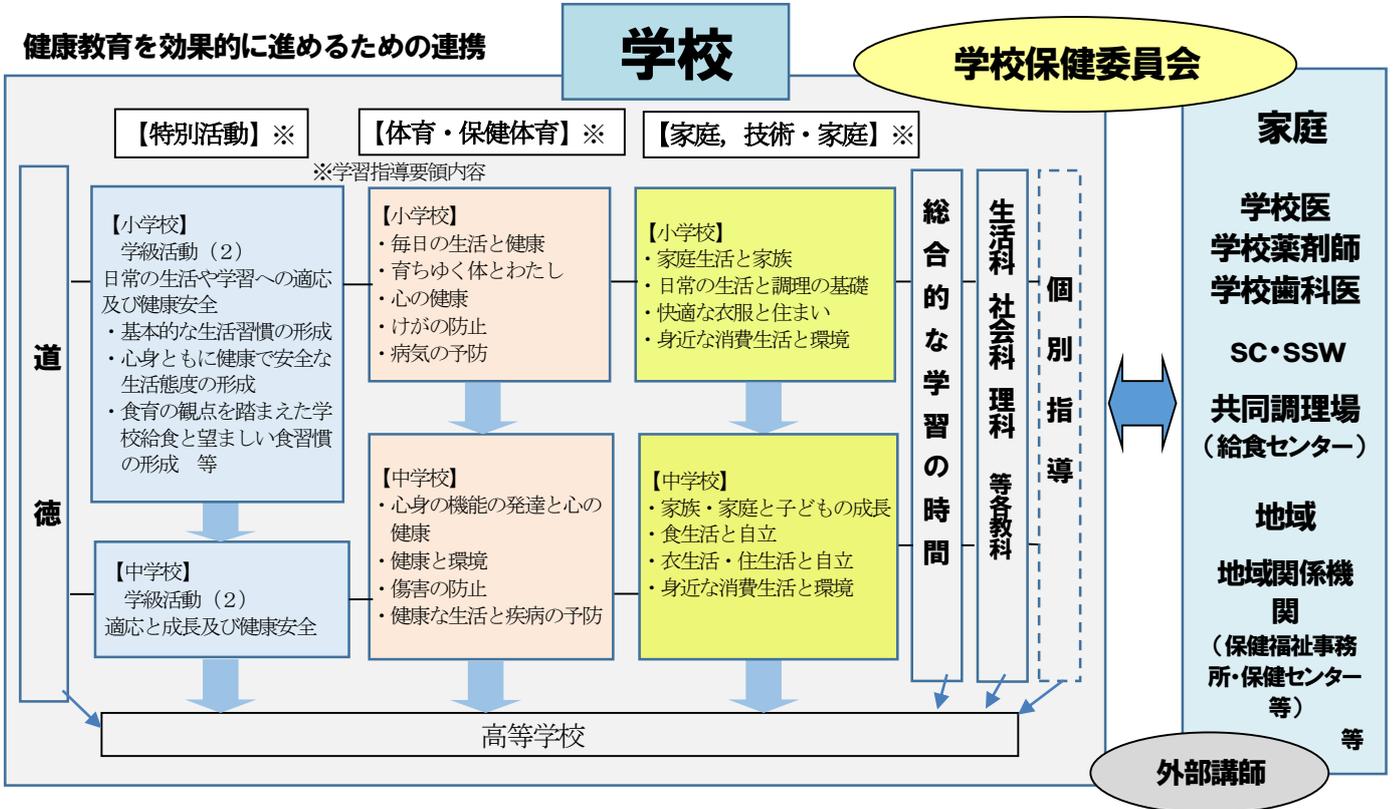
- 家庭等と連携し、日常生活での意識化や活動の発展を図っていく。

【例】学年・学級だより等で学習内容や取組について知らせる。家庭とも連携できるワークシートや継続した記録を残せるカード等を作成し、家庭と協力して意欲付けや評価を行う。

自分の健康に関心を持ち、よりよい生活をしていこうとする健康教育

I 健康教育の目指すこと

健康教育は、学校教育活動全体を通じて全教職員がかかわり、子どもたちが自らの健康課題を把握し、的確に思考・判断して、適切な意思決定・行動選択を行い、生活行動や環境を改善していく資質や能力を身に付けることができるようにすることを目指します。



II 本県の成果と課題

○本県の成果 ◆課題

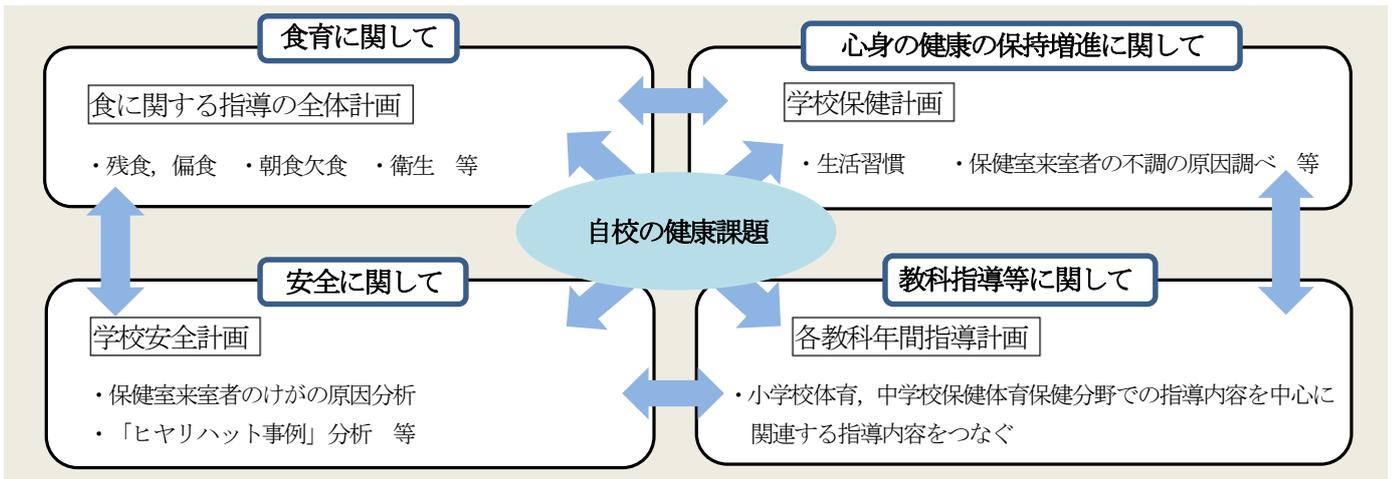
- アンケートや健診結果等から自校の課題をとらえ、養護教諭や栄養教諭等の専門性や立場を生かしたTT授業を取り入れる等、子どもたちの意欲を高めることを意識した授業が増えてきた。
- ◆各教科等が関連付けられた体系的・組織的な健康教育になっていない。
- ◆全教職員が自校の健康課題を共有し、指導計画をもとに連携した取組になっていない。

III 健康教育を効果的に進めるために

◇上記課題の改善の方向

◇各教科等の関連を図った指導計画の立案

- ①養護教諭や栄養教諭等の協力のもと、保健主事のマネジメントにより全職員で関わらしましょう。
- ②子どもたちの学校生活の様子で感じる「気になること」や健康診断、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等から、自校の健康課題を把握しましょう。
- ③各指導計画を相互に関連させて作成し、指導時間の確保や子どもたちが効果的に学べるようにしましょう。



17 キャリア教育

今の学びを将来への轍にするキャリア教育

I キャリア教育への期待

キャリア教育とは

- 「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と位置付けられています。
- 「キャリア」の語源は「^{わだち}轍」です。キャリア教育では、子どもたちが今学んでいることの積み重ねを、将来に向けての轍にしていこうとしています。

Q なぜ、キャリア教育が必要なのですか？

■ 子どもたちの現状は（学力調査等の結果から）

「改善傾向にある」が、「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていくという学力には課題がある。」

■ 将来との関連性の見えぬまま学んだ「知」は

受験終了後に剥落する危険性がある。

文部科学省「科学技術に関する意識調査」（2001）

■ 子どもが漕ぎ出す世の中は

「変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきた」いる。

■ そこでキャリア教育

- 「各教科等での学びが、一人一人のキャリア形成やよりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にすることが必要になる。」
- 「一人一人の可能性を引き出して豊かな人生を実現し、個々のキャリア形成を促し、社会の活力につなげていくことが、社会からも強く求められている。」

「 」内は中央教育審議会答申（平成28年12月21日） 太字は長野県教育委員会

II キャリア教育を進めていくために

1 【目標の設定】-① 自校の特徴に即し「基礎的・汎用的能力」を参考に焦点化

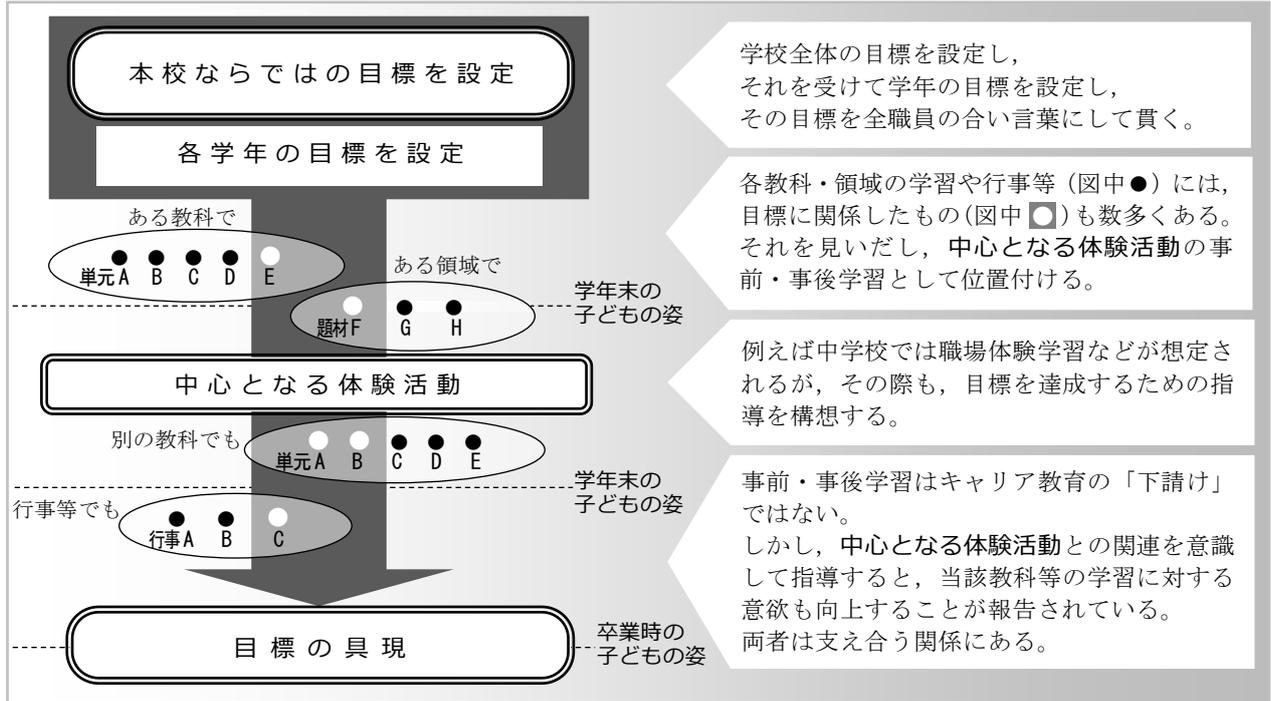
基礎的・汎用的能力	人間関係形成・社会形成能力	多様な他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力
	自己理解・自己管理能力	自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力
	課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
	キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

互いに関連しており、1つの力を高めることで他の力も高まる。焦点化することは他を捨てることではない。

-② この5点にも留意

- 具体的に・焦点化して 焦点化することで、全職員が意識する合い言葉ようになる。
- 測定・検証可能な言葉で 「〇〇しようとする」「〇〇しようと思える」のような末尾にする。
- 頑張れば達成できるレベルで 全体目標を受け、学年間のつながりに留意しつつ学年目標を設定する。
- 現実に即して 「この地域だから」「この子どもたちだから」という視点で考える。
- いつまでに達成するのかを明確にして 「卒業までに」「学年末までに」など。

2【学校の計画】 目標を設定し → 中心となる体験活動を据え → 事前・事後学習でつなぐ



3【全体への指導】 すべての教育活動でキャリア教育の目標を意識

Q でも、教科等の授業の中でキャリア教育も行うのですか？

■ 教科等の授業でねらうのは、あくまで、その教科等の目標だけです。

- 「キャリア教育の視点」というブラックライトをあてるつもりで教科等の授業をしてみる。
- そして単元（題材）の内容や授業展開の中に、キャリア教育としての価値が浮かび上がってくる場合に、その価値を見だし、それを意識して指導する。
- それは「余計なもの」ではなく、子どもが教科学習の意義を実感できることにつながる。

4【個別の支援】 -① 発達段階を踏まえた声かけ 働きかけを

小学校	中学校	高等学校
<p>進路の探索・ 選択にかかる基盤形成の時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ○ 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ○ 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ○ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<p>現実的探索と 暫定的選択の時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ○ 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ○ 進路計画の立案と暫定的選択 ○ 生き方や進路に関する現実的探索 	<p>現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己理解の深化と自己受容 ○ 選択基準としての勤労観・職業観の確立 ○ 将来設計の立案と社会的移行の準備 ○ 進路の現実吟味と試行的参加

-② 教師の日々の働きかけや子どもの自己評価の蓄積を大切に

- 子どもが夢や希望をもてるような教師の語り、子どもの夢や希望を発達段階に応じて後押しする声かけ、子どもの自己決定を促すための「聞く」「受け止める」姿勢に心がける。
- 学期末や学年末の子どもの自己評価は貴重な履歴。子ども自身が振り返り、先の展望をもつために生かしたり、教師の働きかけに活用したりできるよう蓄積する。

5【人とのつながり】 先生方が地域とつながり 信州型CSの取組等とも連動を

- 活力ある社会の実現のため奮闘する魅力的な地域人材と子どもが出会える機会をつくる。

小規模校・少人数学級の利点を生かす学習

I 学習指導要領実施上の本県の成果と課題、改善の方向

○成果 ◆課題
◇改善の方向

- 一人一人の子どもの実態を把握した上で、丁寧な学習指導が行われている。
- ICTを活用し、他校と連動した協働学習を行っている学校がある。
- ◆「教師対子どもの一問一答」の教師主導の授業になりがちで、子どもの主体的な学習の成立や、子ども同士がかかわり合う協働的な学習の成立が難しくなる面がある。

◇子どもの実態を丁寧に把握し、子どもの意識を大切にしたい課題の設定や、一人一人の考えを生かした追究等、子どもが主体的に取り組める場を設定する。また、教師が一人の学習者として意見を出してみるなどの工夫により、多様性を補い、話し合いが深まるようにする。

◇近隣校や小規模校との合同学年会や教科会、研修会等へ積極的に参加し、授業づくりの参考にするとともに、日々の授業を充実させていく。

II 少人数学習指導における「授業がもっとよくなる3観点」の質的な向上

ねらい

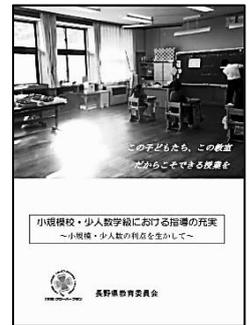
- 「一人一人の願いや思い、疑問に基づいた課題を設定しやすい」利点を生かす
一人一人の子どもの思いや感じたこと、疑問や困っていることをじっくり聞くことで、全員の声を生かした主体的に追究できる本時の課題を設定する。

めりはり

- 「教師が一人一人の子どもとかかわり合う機会が多い」利点を生かす
机間指導で、一人一人に考えの根拠を問い返し、自信がもてるような声かけをすることで、自分の考えを具体的に説明できるようにしたり、友に伝えたいという意欲を高めたりする。
- 「机の配置や移動などを柔軟かつ迅速に行うことができる」利点を生かす
広い教室を生かして、個別追究する場所と共同追究で集まる場所を分けるなど、環境設定を工夫し、子ども同士が自然にかかわり合うことができる場を意図的につくる。
- 「教師が一人一人の考えを把握しやすく、互いに伝え合う活動がしやすい」利点を生かす
全体追究で、全員の意見を板書あるいは提示し、考えの共通点や相違点等を説明し合う場を設けるなど、一人一人が表現する機会をつくる。場合によっては、教師も一人の学習者として意見を出し、子どもが様々な考えを関連付けて、考えが深まるようにする。

見とどけ

- 「振り返りの場面で、全員の子どもが発表する時間や機会が確保できる」利点を生かす
全員が学習問題に対する自分の考えや本時の学習の振り返りを発表する場を設けることで、一人一人の子どもが本時の学びを自覚化できるようにする。
- 「個の実態に応じた定着・補充学習、発展学習がしやすい」利点を生かす
一人一人の実態を把握した上で、つまづきが見られた子どもには、個別指導に加え、つまづきに応じて家庭学習の課題を与えるなどの個別支援を行う。また、新たな課題が生まれるような問いかけや、発展的な追究を支援する等、主体的な学習につながる個別支援を行う。



手引き「小規模校・少人数学級における指導の充実 ~小規模・少人数の利点を生かして~」を活用ください。
→(県教委 HP よりダウンロードできます。

19 幼年教育（3歳児から小学校1・2年）

子どもの連続的な育ちを支える幼年教育

I 幼年教育の充実の必要性

○幼児期と児童期の教育は、それぞれの段階における役割と責任を果たすとともに、子どもの発達や学びの連続性を保障するため、両者の教育が円滑に接続し、教育の連続性・一貫性を確保し、子どもに対して体系的な教育が組織的に行われるようにすることが極めて重要である。

II 幼年教育実施上の本県の成果と課題、改善の方向

（○成果 ◆本県の課題 ◇改善の方向）

○幼児と児童の交流会実施や幼保小連絡会の充実等で、幼保小の連携が進んでいる。

◆子どものとらえについて、幼保等と小学校でお互いの理解をさらに深めていくこと。

◇日常的な連携や職員の合同研修等を通して、教育内容や指導方法についての情報交換を行う。

◆円滑な接続についての取組を充実していくこと。

◇幼保小で子どもの実態を共通理解し、小学校のスタートカリキュラムに反映する。

◆人とかかわる力の育成につながる実践をさらに取り入れていくこと。

◇子どもの興味・関心に基づく共通題材を設定し、園児と児童が交流活動を行う機会を設ける。

III 円滑な接続のための幼保小の連携の工夫例

□ 職員が相互理解を図る場の設定

【職員の相互理解を図る場の例】

- ・幼保小連絡会（年間複数回設定）
- ・各校園で行われる研究保育，研究授業への参加
- ・夏休みを利用した小学校職員の一日保育士等の体験
- ・幼保小職員の合同研修会
- ・長野県幼児教育教育課程研究協議会（東北信地区）（中南信地区）への参加 など

上記のような場を活用し、教育内容や教育方法について相互理解を深め、率直に意見交換する。

□ 円滑な接続のためのスタートカリキュラム等の編成や保育計画の作成

【生活科を中心としたスタートカリキュラムの作成例】

- ・小学校入学当初には、児童が互いに安心して生活できるようにするため、日課を柔軟に変更し、「学校探検」や「仲良くなろう」といった生活科を中心とした合科的な学習活動を行う。
- ・生活の中から文字や数字への関心を高め、学習内容へ移行するなどの授業構成，単元構成を意識する。 文部科学省から配布された「スタートカリキュラムスタートブック」を参照

幼稚園・保育所等と小学校で子どもの実態や課題について相互理解を深めた上で、連続的な育ちを意識したスタートカリキュラム等の編成や保育計画の作成をする。

□ 共通題材を設定した園児と児童の交流活動の設定

【共通題材を設定した交流活動の例】

- ・共通題材：「お店屋さん遊び（お祭り）」、「家づくり」、「自作おもちゃを使ったゲーム大会」等
- ・共通の題材の中で、一緒に制作したり遊んだりすることで、ルール作りの話合いや新たな遊びを生み出す工夫など、異年齢で協力して取り組む姿が自然に生まれる。

園児のために何かをする交流ではなく、それぞれのねらいに応じた交流活動が重要と考える。

感性を高め豊かな情操を養う芸術学習

知識・技能の習得を図り，思考力・判断力・表現力等を育成するための重点

1 知識・技能の習得を図る

芸術的な能力の習得と美に対する感性を

- (1) 創造的な表現及び鑑賞の能力等，芸術活動に必要な能力を着実に定着させたい。
- (2) 芸術の幅広い学習を通して，美しいものに接する喜び，感動を深め，美しさやよさを感じ取る力や表現する力を高めるとともに，生涯にわたって生活や社会に芸術を生かしていこうとする気持ちや態度を育成したい。

2 思考力・判断力・表現力等を育成する

生涯にわたり芸術を愛する心情を育て，感性を高め，豊かな情操を養う指導を

- (1) 音楽
 - ア 地域，学校及び生徒の実態，学科の特色等を考慮したカリキュラムの編成及び指導計画の作成
 - イ 思考・判断し表現する過程を大切にしたり，創造的な表現と鑑賞能力の育成
 - ウ 学習指導と学習評価を一体的に行い学習内容の確実な定着を図るための，学習評価の前提となる指導と評価の計画
 - エ 文化的・歴史的背景などの広い視野で音楽に目を向け，我が国の伝統音楽を含めた音楽文化について理解を深める指導の工夫
- (2) 美術・工芸
 - ア 新鮮な見方や感動，想像や体験に基づく主題を把握させる指導
 - イ 材料，用具を活用させ，表現意図と表現効果との関連を重視させる指導
 - ウ 美術的文化への理解と国際理解に果たす芸術の役割の認識とを深める指導
 - エ 観察力や創造力を高め，自由な発想を尊重する態度の育成
- (3) 書道
 - ア 点や線の特質及び用具，用材の表現効果への関心を高め，美しいものを愛する心の育成
 - イ 生活の中での書の役割を認識させ，積極的に生かすことのできる指導
 - ウ 表装，展示，鑑賞までを含めて，創造の楽しさ，あるいは目標達成の喜びを体験できる機会の提供
 - エ 生徒同士の討議や作品発表の仕方の工夫改善
 - オ 伝統文化としての書の価値やその意義，あるいは世界の文化に果たす役割についての理解を深める指導

21 専門教育に関する諸教科

専門能力の向上に努める資質の育成を図る専門教育

知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力等を育成するための重点

1 知識・技能の習得を図る

急速な社会の変化に対応できる職業人の育成のため、必要な知識・技能の習得を図る学習を

社会経済の進展が一層加速され、技術革新とともに情報化、国際化、少子化、高齢化等により産業構造・就業構造の急速な変化が進み、これまで以上に専門的で高度な知識・技術を有する倫理観をもった人材が必要とされるようになってきている。また、求められる知識・技術の高度化・多様化が進んでいることから、生涯をとおして専門能力の向上に努める必要が高まっている。

このため、専門学科や関係の学校においては、生徒の生涯にわたって学習する意欲と態度を育成するとともに、社会の変化や産業界から求められる知識・技術の水準を視野に入れながら、将来的に必要となる専門性の基礎的・基本的な教育に重点を置く必要がある。

- (1) 専門的知識・技術の基礎・基本を習得させ、産業界が求める人材としての能力の育成
- (2) 情報化の進展に対応するための情報に関する教育の充実（知識・技術、情報モラル意識の向上等）
- (3) 実験・実習等の実践的、体験的学習を重視

2 思考力・判断力・表現力等を育成する

創造性や問題解決能力を育成するため、思考力・判断力を育成する学習を

専門教育を主とする学科における学習の基礎の上に立って、思考力・判断力を高める総合的・発展的な課題を設定し、創造性や問題解決能力を図る学習をとおして、産業界に即応できる専門的な知識・技術を身につけ、社会的知識・技術の変化や課題に応じ、判断する能力、そして創造的・自発的な学習態度を育てる。

- (1) 創造的課題を設定して思考力を育成
- (2) 総合的課題を設定して判断力を育成
- (3) 創造性や問題解決能力を育成するための課題研究の充実
- (4) 倫理観をもって問題を解決する思考力・判断力の育成

社会人として、自分の考えや思いを伝える表現力を育成する学習を

思考力・判断力を育成する学習を基に、自分の思考・判断を他人に伝える表現力（コミュニケーション能力）を育成する。

- (1) 創造的課題を設定して、生徒相互の話し合いを重視する課題研究の充実
- (2) 創造的課題を設定して、研究成果を発表する機会の充実

弾力的で多様な選択ができる教育課程の編成と、個に応じた指導の充実を

各教科・科目の編成については、学習指導要領や中学校の体験的職業教育に則り、生徒の能力・適性・進路の多様化等に配慮したい。また、国際化や情報化、少子高齢化などの社会変化に対応し、特に重視すべき内容の充実を図るとともに、各学校が地域の実情に応じて、創意を生かした指導を行う。

- (1) 能力・適性等に対応できるように多様な学習内容を用意した選択履修幅の拡大
- (2) 教育内容や系統性・総合性への配慮
- (3) 地域社会との連携の強化
- (4) 資格取得の促進による学習意欲の一層の向上と、専門教科に関する知識・技術の習得